

ANNUAL Report

年報 2012



愛媛大学総合情報メディアセンター
Center for Information Technology, Ehime university





総合情報メディアセンターからの メッセージ

総合情報メディアセンター長

大 橋 裕 一

今年も総合情報メディアセンター（CITE：Center for Information Technology, Ehime University）からの年報をお届けします。平成15年4月に発足した本センターは、情報教育、学術研究支援、ネットワーク管理などの幅広い活動を通じて、愛媛大学の情報基盤を支えています。

平成23年4月からは先端研究・学術推進機構に所属するようになり、学生教育や研究活動をはじめとする教職員の円滑な業務遂行のために、情報基盤の改善、維持に携わっています。昨年には、長年の懸案であった学内情報セキュリティポリシーが制定され、新たに定められた基本方針に基づいて、最高情報セキュリティ責任者を頂点とする学内情報ネットワークが安定的に運用されています。

情報基盤システムについては、学長裁量経費による手厚い支援のもと、仮想化サーバー導入による城北－重信間でのデータベース冗長化、CWDM化による地区間回線の強化が図られ、学内情報ネットワークのパフォーマンスが一段とアップしたほか、補正予算により、来るべき東南海地震に備えた災害対策（免震テーブル、非常電源設備）を行う予定です。また、次期情報基盤システムの構築に向けた仕様策定委員会も立ち上がっています。

一方で、新しく設置された教育デザイン室を中心に、e-Learningを核とした新しい教育スタイルの普及に向け、積極的に取り組んでいます。幸いにも、本年度から始まる大学間連携共同教育事業に採択されたほか、大学改革推進事業による四国5大学間連携事業の支援も受けることができ、人的及び物的な補強が実現しました。また、学内における無線LAN環境の整備も本年6月までには完了する予定で、e-Learning実施のためのインフラ環境も整います。

総合情報メディアセンターが行っているこれら様々な取り組みについて、皆さま方の温かいご支援とご理解をよろしくお願い申し上げます。

センター長あいさつ

1. 部門概要・業績

(1) 部門教職員	1
(2) 部門概要	2
(3) 教員活動実績	8

2. 教育研究実績

(1) 研究活動	13
(2) 学会発表等	18

3. 教育活動及び教育支援

(1) 教育活動	19
(2) 教育支援	21

4. 研究活動及び研究支援

(1) 研究成果	22
----------------	----

5. 業務関連

(1) 沿 革	27
(2) 情報基盤システム	27
(3) 事業実績	32
(4) 利用状況	33
(5) センターイベント	36
(6) 各種委員会	37
(7) センター規則	40

(1) 部門教職員(2013年3月現在)

【センター長(兼)】

教 授：大橋 裕一

【情報基盤部門】

教 授：川原 稔

助 教：佐々木隆志

【情報メディア教育部門】

准 教 授：和田 武

助 教：仲道 雅輝

【学術情報システム部門】

教 授：中川 祐治

教 授：野口 一人

【その他】

特定研究員：池住 元秀

教育支援者：菊川 佳代

【総合情報メディアセンター事務課】

課 長

村上 鋼次

総務チーム

チームリーダー：村上 泰彦 事務補佐員：梶村 千穂 事務補佐員：白石 瞳

電子情報チーム

チームリーダー：近藤由香里 チームリーダー：野本 幸代 サブリーダー：瀧本 笑子

技術補佐員：三神 早耶 部員(兼)：平岡 尚徳

情報基盤チーム

技術専門職員：宮内 譲嗣 技術員：増田 隆司

技術専門職員(樽味)：伊藤 信房 技術専門職員(重信)：中村 勝

(2) 部門概要

【情報基盤部門(Division of Network and Computing)】

愛媛大学における情報ネットワークの整備計画を統括し、研究・教育の高度化・多様化に対応した高度なネットワーク技術の導入、情報セキュリティポリシーの確立等、高速・高信頼ネットワークシステム及び情報システムを構築することをその目標としている。

平成24年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学情報基盤システムの運用管理

総合情報メディアセンター事務課と共同して、情報基盤システムの安定的な運用管理を行っている。情報基盤システムの保守作業を委託している業者とは、情報基盤システム保守定例会を開催（第1回：4月16日、第2回：5月22日、第3回：6月19日、第4回：7月17日、第5回：8月27日、第6回：9月18日、第7回：10月16日、第8回：11月20日、第9回：12月18日、第10回：1月22日、第11回：2月19日、第12回：3月19日）し、情報ネットワーク及び情報システム（サーバ群、パソコン端末群）の障害対応や改善について指導的役割を果たした。業者だけでは対応不可能な問題に関しては、情報基盤システム保守定例会の機会他にも随時技術的指導等を行い、愛媛大学の情報基盤として相応しい安定した運用を行えるよう対策を講じ続けている。

2) 総合情報メディアセンター第2部会（情報資源・セキュリティ管理部会）

総合情報メディアセンター第2部会では、愛媛大学における情報ネットワークや情報システム等の情報資源、及び、情報セキュリティ関連事項について、整備、立案、予算確保、構築、運用管理等あらゆる審議を行っている。基本的に、部会において情報資源・セキュリティ関連事項について種々の検討を行い、決定事項について必要に応じて教員コア会議・センター会議への審議送り、並びに、学長や役員会との調整作業を行っている。平成24年度の部会は、第1回：5月28日、第2回：6月26日、第3回：7月24日、第4回：8月28日、第5回：9月25日、第6回：10月23日、第7回：12月11日、第8回：1月22日、第9回：2月26日、第10回：3月26日に開催した。政府調達を含めた調達案件の方針決定や仕様策定も審議事項に含まれ、更に、愛媛大学情報セキュリティ委員会に対する情報セキュリティ専門委員会的な役割も果たした。

3) 情報セキュリティ関連規程類の整備

平成23年度に策定した愛媛大学情報セキュリティポリシー（情報システム運用基本方針、情報システム運用基本規則、情報セキュリティ委員会規程）に基づいて、以下の情報セキュリティ関連規程類の原案を策定した。

- ・ 情報システム運用・管理規程
- ・ 情報格付基準
- ・ 情報システム運用・管理手順
- ・ 格付け及び取扱制限の判断基準
- ・ インシデント対応手順
- ・ インシデント報告・承認要領
- ・ 情報セキュリティフロー
- ・ 部局等情報システムにおける役割一覧表
- ・ 情報システム利用上のガイドライン

これらの規程類は、愛媛大学情報セキュリティ委員会に於ける審議を経て、役員会及び教育評議会にて承認され、平成24年9月12日に施行された。

4) 学術認証フェデレーションへの参加

国立情報学研究所が主導する学術認証フェデレーション（学認）に平成24年4月1日参加した。これにより、日本国内の大学との情報資源の共有を図ることができ、さらに、学認との提携関係にあるeduroamの利用者が、後述の無線ネットワークを利用する環境となった。

5) 愛媛大学情報セキュリティポリシー関連説明会の開催

情報セキュリティポリシー及び関連諸規程等の整備が整い、その運用管理体制が確立されたことを受けて、平成25年3月27日(水)に「愛媛大学情報セキュリティポリシー関連説明会」を開催した。本学情報セキュリティポリシーに関連する基本的な事項に関する説明や、部局等における必要実施事項等に関する説明を行い、本学及び部局における基本的な取り組み事項を確認した(川原稔担当)。引き続き、BSIグループジャパン株式会社福岡支店の越智友仁氏から「情報セキュリティの必要性」について、特に基本的なセキュリティインシデントに関して、最新のデータを交えた講演を行った。参加者は45名(総合情報メディアセンター教職員除く)であった。

6) 仮想化統合環境の整備

総合情報メディアセンターでは、情報システムの仮想化を平成16年度より進めてきたことにより、全国に先駆け先進的な仮想化システムが整備されている。平成24年度は、仮想化システムの高性能・高機能化を図ると共に高可用性を確保するため、仮想化システムを城北キャンパスと重信キャンパスで冗長構成とすることで事業継続計画(BCP)に適応できる仮想化統合環境としての整備を行った。仮想化システムには、仮想化ノード(2.4GHz Xeon E7-2870 10C 2.40GHz CPU×2, 128GBメモリ)3台、ストレージシステム(RAID10, 実効容量30TB 2台)、冗長系SAN(Storage Area Network)、その他補助装置の増設を行い、処理性能を約3倍に高めた。構築した仮想化システムは2つの仮想化サーバから構成されており、仮想化サーバの一つは重信キャンパスに移設した。城北キャンパスのサーバ室と重信キャンパスのサーバ室は、後述のキャンパス間接続により一体化し、両仮想化サーバは密接に結びついて稼働する仮想化システムとして構築した。これにより、片系の仮想化システムに何らかの障害が発生し利用できない状況になっても、残りの仮想化システムによりサービスが継続できる高可用性を確保した耐障害型仮想化統合環境の基礎を築くことができた。

7) キャンパス間ネットワークの整備

愛媛大学における情報ネットワークの利用増加に伴い、キャンパス間の通信トラヒックによる逼迫が問題となってきた。これに対し、データセンターを中心としたキャンパス間ネットワーク(城北、重信、樟味、持田)の通信回線をCWDM(Coarse Wavelength Division Multiplexing)により光多重化することによって、回線容量の増強を行った。これにより、データセンターとの間で、城北キャンパス及び重信キャンパスでは光ファイバー7回線分、樟味キャンパス及び持田キャンパスでは光ファイバー3回線分の回線の確保ができた。平成25年度には、同回線を用いてキャンパス間ネットワークの高速化等を行う予定になっている。

8) 無線ネットワークの整備

愛媛大学の講義室やパブリックスペースに於いて、モバイルデバイス(ノートパソコン、タブレット、スマートフォン等)を授業やその他活動で活用できる環境整備を進めた。本方式では、公衆無線LAN(愛媛CATVワイヤレスネット)と相乗りすることにより、低コストかつ将来に渡り安定的な無線ネットワークの供給を継続的に行うことができる。官報公示を伴う政府調達を行った関係で、無線ネットワークの構築完了は平成25年6月11日となっていたが、2年間にわたる整備計画を実現することができた。これにより、愛媛大学では、講義室・教室の全域だけではなく、学外者が自由に立ち入りできるエリアであるパブリックスペースについても全域で無線ネットワークが使用できる環境となる。

9) 学習管理システムの整備

これまで情報基盤システムの一部として運用を行っていた学習管理システムMoodleを情報システムとして独立させて、Moodleの対応を得意とする業者委託形態とした運用を行うための整備を行った。これにより、Moodleの高可用性を確保することができるだけでなく、愛媛大学独自の機能強化を行うことができるようになり、学習コンテンツの充実と相まってますます教育活動を活発化させることができるようになる。当該システムは平成25年5月1日本運用開始の予定であり、平成25年度後学期からは現在の情報基盤システムのものから切り替えて本格的運用を開始する予定である。

10) ホスティングサービスの整備

仮想化統合環境が整備されたことにより、学内から要望が多かったホスティングサービス制度の整備を行うことができた。既に、愛媛大学ホームページの運用や財務部情報システムの運用を行っているが、研究活動や教育活動、さらには、地域連携や社会連携にも活用できるプラットフォームとして利用が可能となった。メールサービスについても、ホスティングサービスとしての一形態として再定義し、運用体制を整備した。パブリッククラウドを活用する方策についても議論を重ねた。

11) 遠隔拠点の整備

愛媛大学では、地域・社会連携等のため愛媛県内に多くの遠隔拠点を抱えている。遠隔拠点においては、主要キャンパスと変わらない情報ネットワーク環境を提供するため、総合情報メディアセンターではVPN（Virtual Private Network）による遠隔拠点への情報ネットワークを構築して供給している。平成24年5月に西予市立野村病院、平成24年9月に石川病院、平成25年3月に南予水産研究センターへの情報ネットワーク構築を行った。現在、遠隔拠点用情報ネットワークは22地点となっている。

【情報メディア教育部門(Division of Multimedia Education)】

情報メディア教育部門は、高度情報化技術を活用した情報リテラシー教育及び各種のマルチメディア教育のシステム開発を研究し、実践方法の検討を行うこと、さらに、愛媛大学の情報リテラシー教育を企画・立案するとともに実施方法の検討を行うことをその目標としている。

平成24年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 教育デザイン室の設置

ICTを活用した授業構成の見直し、コンテンツ制作のサポート、講義などの撮影、eラーニングの運用サポートなど、ICTを活用した教育展開を支援していく第一段階として体制を整備するとともに、平成25年4月1日制定に向けて規程の整備を行った。

2) eラーニングコンテンツの制作

正課授業で利用するコンテンツや教職員向けのコンテンツなど、15コンテンツ（計32講分）の制作を行った。今年度制作したコンテンツの一覧は下表のとおりである。

No.	科 目	備 考
1	教職実践演習（補完教材等）【教育学部】	補充学習用教材 3 講／全 3 講
2	安全衛生教材（実験機器）【理学部】	予習用教材 7 講／全 7 講 補充学習用教材 6 講／全 6 講
3	安全衛生教育プログラム教材【農学部】	1 講／全 1 講（6 章構成） 今年度、一部コンテンツ化 来年度、継続的に作成予定
4	安全衛生（社会力入門）【共通教育】	1 講／全 1 講（3 章構成）
5	日本語リテラシー入門【共通教育】	2 講／全 4 講
6	iPad用教材【附属高等学校】	iPadアプリ作成
7	食育教材【共通教育】	4 講／全 8 講
8	こころと健康【共通教育】	1 講／全 1 講（3 章構成）
9	情報セキュリティコンテンツ【総合情報メディアセンター】	1 講／全 1 講
10	eラーニングを活用したアクティブ・ラーニングのためのワークショップ【教育学部】	1 講／全 1 講（3 章構成）
11	公開シンポジウム「学習意欲を高める授業とカリキュラムのデザイン」【教育企画室】	1 講／全 1 講
12	「リーダーズ・スクール～サマースクール～」【教育企画室】	1 講／全 1 講
13	「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法～SPOD～」【教育企画室】	1 講／全 1 講
14	「リーダーシップ・チャレンジ in 韓国～愛媛大学・松山大学連携事業～」【教育企画室】	1 講／全 1 講
15	高圧ガス保安講習会【農学部】	1 講／全 1 講

3) 修学支援システムとの連携

平成24年9月の修学支援システムへのログインIDの愛媛大学アカウントへの変更に続き、平成25年2月よりMoodleのログインIDを愛媛大学アカウントに変更した。それに伴い、全教職員がアカウントの申請をすることなく、Moodleを利用することが可能となった。

4) 共通教育TA・SA研修として「情報科学TA・SA研修」を実施（平成24年4月6日(金)16:10～17:20）

- ・TAとSAの役割について（和田武）
- ・センター機器の操作について（宮内譲嗣）
- ・eラーニングシステムの利用について（平田浩一）
- ・TAとSAの業務確認ならびにマネージメントについて（二神透）
- ・グループワーク

5) eラーニングシステム上に情報科学教員・TA・SA専用コンテンツを作成し、TA・SA業務内容の周知・徹底を図るとともに、毎回の業務報告を提出する場として活用する。

6) 共通教育科目「情報科学」を、習熟度別クラス編成による全学共通シラバスのもとでeラーニングによる共通コンテンツを活用した授業として実施。

担当：オンライン習熟度別振り分け試験、習熟度別クラス振り分け、オンライン確認テスト、オンライン模擬テスト、オンライン期末テストを実施する。

7) 総合情報メディアセンター第3部会「eラーニング推進部会」に於いてeラーニング推進について種々の検討を行った。開催日程及び審議事項等は下表のとおりである。

回	日 時	審 議 事 項 等
第1回	平成24年6月6日(水)	第3部会（eラーニング推進部会）について 第3部会（eラーニング推進部会）の開催日程について Moodleの利用について 動画教材作成ソフトについて
第2回	平成24年7月11日(水)	第1回eラーニング推進部会議事要旨について 第3部会（eラーニング推進部会）委員について 平成24年度eラーニング推進部会事業計画担当表について 平成24年度コンテンツ開発計画について 利用許諾書について 動画教材作成ソフトの導入について STACKについて ICT利用状況アンケートについて 後学期の部会の開催日程について
第3回	平成24年9月19日(水)	Moodleの次期バージョンへの移行について Moodleバージョンアップに伴う機能の変更について 課題スケジュールの進捗状況について
第4回	平成24年10月11日(水)	課題スケジュール 進捗状況中間報告
第5回	平成24年12月13日(水)	次期Moodleシステムについて 次期Moodleシステムへのコンテンツの移行について Moodleメジャーバージョンへの更新について 愛媛大学アカウントのMoodleへの適用について ICT活用教育事例紹介リーフレットについて コンテンツ作成の進捗状況について ICT活用に関する問い合わせについて
第6回	平成25年2月14日(水)	課題スケジュールの進捗状況について 愛媛大学アカウントのMoodleへの適用について コンテンツ作成の進捗状況について ICT活用教育事例紹介リーフレットについて eラーニングコンテンツ作成支援パンフレットについて ICT活用に関する問い合わせについて
第7回	平成25年3月14日(水)	修学支援システムと連携したMoodleコース利用申請について 課題スケジュール最終報告 平成25年度eラーニング推進部会委員について ICT活用に関する問い合わせについて

- 8) 著作権戦略検討部に委員（仲道雅輝）として参加し、愛媛大学の著作権戦略について検討を行った。
- 9) 教育・学生支援機構主催の「FDスキルアップ講座」の講師として1講座を実施した。
 - ・「Eラーニング入門」（平田浩一・佐々木隆志、平成24年9月7日）
- 10) 附属高校との高大連携プログラムとして附属高校1年生全員を対象に「キャンパスIT授業」を実施。（平成24年9月12日(水)13:00～17:00）。
 - ・「ガイダンスと施設案内」（和田武）
 - ・「遊びとしての和算」（平田浩一）
 - ・「空間行動データの視覚化体験」（二神透）
 - ・「映像編集にチャレンジ」（中川祐治）
- 11) 共通教育情報リテラシー入門チーム（第7部会）と共に、平成25年度の情報リテラシー入門の教科書『情報リテラシー入門 2013年版』の編集作業を行った。
- 12) 「Moodle講習会」を平成25年3月22日(金)13:30～16:30に実施した。（担当：仲道雅輝、佐々木隆志、瀧本笑子）

【学術情報システム部門(Division of Information System)】

学術情報システム部門は、学内ネットワークを含めた情報システムの安全かつ効率的な運用を行うための研究開発及び学内の先端的研究センターへのデータベース構築、情報発信面での研究協力・支援を行う。

平成24年度の主な活動は以下のとおりである。

1) e-まつやま最先端情報技術研究会における研究及び人材育成

2008年に、愛媛大学・松山市・松山法人会及び松山商工会議所による合同研究会「e-まつやま最先端情報技術研究会」が発足し5年目を迎えた。本研究会は、先進的な情報通信技術全般について調査・研究等を行い、その有効性等を検証するとともに、地域の人材育成や地域産業の活性化を図ることを目的として設立された。平成24年度は、Android端末によるガイドシステムの構築を行った。具体的には、展示物に貼付されたマークをAndroid端末により認識しそれがどのような物体であるかを物体同定し、対象物に関するコンテンツを表示させる。人材育成では、数学科3年生の希望者4名を対象として、携帯端末で急速に普及し始めたAndroidを題材として講義・演習を行った。演習のほとんどはPC上のエミュレータを用いたが、e-まつやま最先端情報技術研究会のサポートを受けて購入したAndroidタブレットを利用し、エミュレータで作成したプログラムを実機で動作確認できる環境を用意した。また、この講義は3年生向けであるが、興味を持った上級生（4年生及び博士前期課程）も参加し、4つのチームに分かれ、最終回にはプログラムコンテストを実施し互いに評価し合った。また、これ以外に以下のイベントを実施した。

- ・6月29日から30日の2日間に渡って「えひめITフェア2012」に出展しマークによる物体同定システムの展示と内容説明を行った。
- ・9月29日に四国電力(株)総合研修所で開催された平成24年度電気関係学会四国支部連合大会において「Androidタブレットによるガイドシステムの構築」と題して発表した。
- ・10月4日に幕張メッセ国際会議場で開催された電子情報通信学会「パターン認識・メディア理解研究会」において「Androidタブレットによるガイドシステムの構築」と題して発表した。

2) 松山市業務系システムの総合評価委員会での貢献

8月から11月にかけて、「松山市国民健康保険システム再構築事業」業務委託総合評価委員会委員として、企業から提案のあったシステムに対する評価及びプレゼンテーションを審査し、松山市の業務系システム最適化を目指した取組みに参画した。

3) 愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会での貢献

愛媛県警よりネットワーク上で犯罪の可能性を調査する「サイバーパトローラー」を学生に委嘱したいとの依頼を受けて、本学より5名の学生（学部生及び大学院生）を選抜し、7月12日に愛媛県警本部において委嘱式が執り

行われた。サイバーパトローラーとして委嘱された学生は県警のサイバー犯罪対策室と連携して調査及び情報収集にあたった。

4) 松山大学との連携事業

「サイバーパトローラーの交流と情報技術力向上」と題して、平成24年度から2年計画で事業を実施している。本事業は近年高度化しているサイバー犯罪に対応するために、上記サイバーパトローラーの技術力を向上させる目的で、セキュリティ関連企業の研究所や学会の関連研究会へ派遣するものである。本年度は9月19日から22日に、本学と松山大学のサイバーパトローラー6名とトレンドマイクロ社のマニラ中央研究所を訪問し、現地研究員が受講するのと同程度のセミナーを2日間に渡って受講した。

5) 環境ESD指導者養成講座への協力

12月1日(土)9:00から17:00まで「環境ESD指導者養成講座Ⅰ」において『野外活動における安全管理』について講義と実習を行った。この養成講座では、海・山・里での野外実習が行われるため、これらの中で特に注意を要する海・川・山のフィールドに特有の危険について講義とグループワークを行った。さらに指導者としての安全管理を実体験するために、実際に校内のフィールドに出向き、グループごとにネイチャーゲームを実施することで、危険予知訓練を徹底的に行った。

6) 「キャンパスIT授業」の実施

9月12日(水)に総合情報メディアセンターにおいて、キャンパスIT授業を実施した。附属高校1年生に対して「映像編集にチャレンジ」と題して、Adobe Premiere Elementsを用いて映像編集を行った。編集元となる映像は、えひめITフェアの展示会場であらかじめ収録したものを利用した。

(3)教員活動実績



中川 祐治

NAKAGAWA Yuji

生年月日：1957年12月14日

職 歴：●(株)富士通研究所情報処理研究部門パターン研究部研究員（1986年4月～1989年12月）

●鹿児島大学助教授（1990年1月～1990年3月）

●鹿児島大学情報処理センター主任／助教授（1990年4月～1993年3月）

●国際基督教大学助教授（1993年4月～1995年3月）

●国際基督教大学準教授（1995年4月～1996年6月）

●愛媛大学教授（1996年7月）

学 歴：東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了

学 位：1986年理学博士（東京都立大学）

免許・資格：●(公)日本シェアリングネイチャー協会認定「ネイチャーゲームリーダー」（1999年8月）

●NPO法人自然体験活動推進協議会認定「自然体験活動リーダー」（2003年4月）

所 属 学 会：人工知能学会，情報処理学会，電子情報通信学会，日本データベース学会，ACM，コンピュータ利用教育協議会，高エネルギー物理学研究者会議，日本環境教育学会，日本環境教育フォーラム

専 門 分 野：情報認識学，高エネルギー物理学，環境教育

研 究 課 題：画像認識・理解の研究，遠隔教育システムの研究，環境教育と情報認識学の融合

部局内貢献：●共通教育センター第8部会（2006年10月～）

●総合情報メディアセンター会議委員（2011年4月～）

●学術研究委員会委員（2011年6月～）

●業務継続計画策定ワーキンググループ（2011年11月～）

学外審議会・委員会活動：

●愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会顧問（2007年12月～）

●九州大学情報基盤研究開発センター全国共同利用運営委員会委員（2011年4月～）

●「松山市国民健康保険システム再構築事業」業務委託総合評価委員会（2012年8月～2012年11月）

調査・研究会等への貢献：

●愛媛大学社会連携推進機構研究協力会「e-Learning研究部会」代表（2007年7月～）

●e-まつやま最先端情報技術研究会理事（2008年4月～）

講 演 実 績：●「映像編集にチャレンジ」，キャンパスIT体験会2012，愛媛県（2012年9月）

地域啓発活動・教育機関支援活動：

●愛媛県シェアリングネイチャー協会理事及び事務局長（2005年4月～）

ボランティア活動：

●愛媛県シェアリングネイチャー協会道後シェアリングネイチャーの会運営委員長（2007年1月～）



野口 一人
NOGUCHI Kazuto

職名：教授
電話：089-927-8802
FAX：089-927-8805
E-mail：noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp

職 歴：●日本電信電話株式会社フォトニクス研究所勤務（1986年4月～2011年6月）
●愛媛大学教授（2011年7月）
学 歴：早稲田大学大学院理学研究科修士課程修了
学 位：2001年博士（工学）（早稲田大学）
免許・資格：レーザー機器取扱技術者（第1種）
第一種衛生管理者
所 属 学 会：電子情報通信学会，応用物理学会，IEEE
専 門 分 野：光デバイス，光波長多重通信，情報ネットワーク
研 究 課 題：光・情報ネットワークの低消費電力化，ICTを

活用した遠隔医療システム

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員
（2011年7月～）
●情報資源・セキュリティ管理部会委員
（2011年7月～）
●安全衛生管理委任者（2013年1月～）

調査・研究会等への貢献：

●大学プログラミングオープンチャレンジ
（EPOCH@まつやま）実行委員（2011年）
●第73回応用物理学会学術講演会現地実行委員
（2012年9月）
●電子情報通信学会ネットワークシステム研究会・無線ネットワークシステム研究会現地世話人（2012年12月）
●電子情報通信学会光通信システム研究会現地世話人（2013年1月）
●日本胎児心臓病学会日本胎児遠隔医療研究会幹事（2013年2月～）



川原 稔
KAWAHARA Minoru

職名：教授
電話：089-907-6700
FAX：089-927-8805
E-mail：kawahara@cite.ehime-u.ac.jp

職 歴：京都大学助手（1990年4月～2004年2月）
学 歴：京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士課程修了
学 位：2003年博士（情報学）（京都大学）
所 属 学 会：電子情報通信学会，情報処理学会，ヒューマンインタフェース学会
専 門 分 野：計算機システム・ネットワーク，知能情報学，教育工学，リハビリテーション科学・福祉工学
研 究 課 題：●オーバーレイネットワークを基盤とした自律協調分散システムに関する研究
●アドホックネットワークにおける情報ネットワーク新技術開発成に関する研究
●データマイニングを用いた大規模情報検索に関する研究

●学習管理システムにおける学習行動パターン導出による学習効果解析に関する研究
●視覚情報保障の基盤となる情報通信技術に関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員
（2011年4月～）

●情報基盤システム保守定例会議長
（2011年4月～）
●第2部会（情報資源・セキュリティ管理部会）部会長（2011年7月～）
●愛媛大学キャンパス内の公衆無線LAN環境整備仕様策定委員会委員長（2012年度）
●愛媛大学最高情報セキュリティアドバイザー（2012年9月～）

学会審議会・委員会貢献：

●電子情報通信学会コミュニケーションクオリティ研究専門委員会専門委員（2007年4月～）

地域啓発活動・教育機関支援活動：

●Open WiMAX研究会幹事（2009年2月～）

**和田 武**

WADA Takeshi

生年月日：1950年 8 月12日

職名：准教授

電話：089-927-8801

FAX：089-927-8805

E-mail：wada@cite.ehime-u.ac.jp

学 歴：広島工業大学工学部電子工学科卒業

学 位：1995年 6 月博士（医学）（愛媛大学）

免許・資格：安全衛生管理者，防火管理者，統計士

所 属 学 会：情報処理学会，日本教育情報学会，コンピュータ利用教育学会

専 門 分 野：教育工学

研究 課 題：インターネット俳句サーバの運用に関する研究，教育情報の活用に関する研究，テスト理論に関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員
(2011年 4 月～)**仲道 雅輝**

NAKAMICHI Masaki

生年月日：1971年 5 月 8 日

職名：助教

電話：089-927-8800

FAX：089-927-8805

E-mail：nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

職 歴：●学校法人日本福祉大学事務職員

(1995年 4 月～2011年 9 月)

●愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室助教
(2011年10月)●愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育・
学生支援機構教育企画室助教 (2012年 7 月)学 歴：●日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業
(1995年 3 月)●熊本大学大学院社会文化科学研究科教授シス
テム学専攻修士課程修了 (2009年 3 月)

学 位：1995年学士（社会福祉学）（日本福祉大学）

2009年修士（教授システム学）（熊本大学）

免許・資格：●eLC認定e-Learning Professional資格
(2009年)

・e-Learningマネージャー

・ラーニングデザイナー

・e-Learningエキスパート

・e-Learningコンサルタント

・コンテンツクリエイター

●中学校社会科 1 種免許状 (1995年)

●高等学校教諭 1 種免許状（公民）(1995年)

●養護教諭 1 種免許状 (1995年)

●日本スノーボード協会（JSBA）1 級
(1996年)

●図書館司書資格 (1998年)

●中型自動車運転免許 (2011年)

所 属 学 会：日本教育工学会，教育システム情報学会，日本
教育メディア学会，大学教育学会，大学行政管
理学会，日本カッオ学会専 門 分 野：教授システム学，インストラクショナル・デザ
イン (ID)，教育工学，e-Learning研究 課 題：●インストラクショナル・デザイン (ID) 手
法を活用した，効果的な授業方法（ICTを活
用した授業改善・授業コンサルテーション）
に関する研究●高等教育機関における全学的なe-Learning推
進に関わる研究

●FD・SD活動の普及要因に関わる研究

●学生能力開発における成長過程に関わる研究

●組織開発・組織変革に関わる研究

部局内貢献：●eラーニング推進部会長

●教育デザイン室事業実施責任者

●eラーニング推進専門委員会委員

●学修ポートフォリオ開発等に関する専門委員
会委員

●経営情報分析室室員

●著作権戦略検討委員会委員

●愛媛大学教育改革促進事業（愛大GP）教育
改革諮問委員会委員

●愛媛大学「教育改革の歩み」編集委員

●愛媛大学大学教育実践ジャーナル編集委員

- 愛媛大学「愛大GP事業」各GP運営委員
 - 1) 教育学部：「eラーニングの活用による実質的な「教職実践演習」の実施－学習の機会と質を保证するためのeラーニング－」（委員）
 - 2) 理学部：「E-Learningによる副教材学習システムの構築(3)－動画教材の充実と学生の主体的学習の促進－」（委員）
 - 3) 教育学部：「学部－全学IRのための運用システム設計の提案」（委員）
- メディアサポート映像部顧問教員（SCV）
- 総合情報メディアセンター会議委員
- 総合情報メディアセンターコア会議委員
- eラーニング推進部会委員
- 図書館オリエンテーション改善のためのコンサルテーション
- 授業コンサルテーション（4回）

学会審議会・委員会貢献：

- 文部科学省大学間連携共同推進事業運営委員
「学士力養成のための共通教育システムを活用した主体的学びの促進プログラム」, 2012.
- 日本教育工学会第28回全国大会（教育評価・データ解析セッション座長）, 長崎大学, 2012.

講演実績：

- 次世代リーダー養成研修, 2012年6月・7月・11月, 2013年1月
- 東京理科大学第7回FDセミナー「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」, 2012年7月
- 愛媛大学教育学部「eラーニングを活用したアクティブラーニングのためのワークショップ」, 2012年7月
- 「授業デザインワークショップ」, 2012年7月
- SPODフォーラム「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」, 徳島大学, 2012年8月
- SPODフォーラム「後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座」, 徳島大学, 2012年8月
- SPODフォーラム「若手・中堅職員のための

コーディネート力養成講座」, 徳島大学, 2012年8月

- 「SDプログラム開発ワークショップ（社会連携系プログラム開発）」, 新居浜, 2012年8月
- リーダー養成セミナー「リーダーの必須スキルⅠ－ルフィーの仲間力より－」, 愛媛県えひめ女性財団男女共同参画センター, 2012年9月
- 「教える仕事に就きたい大学院生のための授業デザインワークショップ」, 愛媛大学, 2012年9月
- 4大学間（島根大学・山口大学・高知大学・愛媛大学）共同事業「学生リーダーズ・サマースクール」, 2012年9月
- リーダー養成セミナー「リーダーの必須スキルⅡ－ルフィーの仲間力より－」, 愛媛県えひめ女性財団男女共同参画センター, 2012年10月
- FD/SDセミナー in 東北「学生を元気にする学生支援」, 2012年11月
- FD/SDセミナー in 東北「大学職員のための業務改善・企画力養成講座」, 2012年11月
- リーダー養成セミナーフォローアップ講座「自分を育てる－白熱教室Ⅰ（失敗した時ピンチの時の気持ちの持ち方, リーダーのメンタル力アップに向けて）」, 愛媛県えひめ女性財団男女共同参画センター, 2012年11月
- 「学生の自立を促す学生支援」, 愛媛県立医療技術大学, 2012年12月
- 愛媛大学医学部リーダーズ研修, 2012年12月
- リーダー養成セミナーフォローアップ講座「仲間を育てる－白熱教室Ⅱ（なぜ部下や仲間が育たないのか, リーダーの育成力アップに向けて）」, 愛媛県えひめ女性財団男女共同参画センター, 2012年12月
- 「インストラクショナル・デザイン（ID）を活用した職員による企画・立案マネジメント」, 高知大学, 2013年1月
- SPODセミナー「学生の授業時間外学習を促

すシラバス作成法」, 愛媛大学, 2013年 1 月
(2 回, 遠隔講義対応含む)

- 「eラーニング入門 (moodle講習)」, 愛媛大学, 2013年 3 月

地域啓発活動・教育機関支援活動:

- 国際シンポジウム 企画・運営「学習意欲を高める授業とカリキュラムのデザイン～高等教育の質保証のためのインストラクショナル・デザイン～」, 2012年 8 月

ル・デザイン～」, 2012年 8 月

- ラーニング・ポートフォリオの事例, 明治大学, 2012年 9 月
- 授業改善 (eラーニング活用を含む), 動機づけ理論を活用した授業構成, 愛媛県立医療技術大学, 2012年 9 月
- 情報システム室運営と情報教育改革, 武庫川女子大学, 2012年11月



佐々木 隆志

SASAKI Takashi

生年月日: 1974年 3 月16日

職名: 助教

電話: 089-927-8354

FAX: 089-927-8805

E-mail: sasaki@cite.ehime-u.ac.jp

- 職 歴: ●京都科学技術専門学校 (京都府京都市) 非常勤講師 (2001年 4 月～2003年 3 月)
- 京都コンピュータ学院 (京都府京都市) 非常勤講師 (2004年 4 月～2005年 3 月)
- 国立国会図書館関西館 (京都府精華町) 非常勤調査員 (2004年 6 月～2007年 2 月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2004年10月～2005年 3 月)
- 奈良産業大学 (奈良県生駒郡) 情報学部非常勤講師 (2005年 4 月～2007年 2 月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2005年12月～2006年 3 月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2006年12月～2007年 2 月)
- 愛媛大学総合情報メディアセンター (2007年 2 月)

- 学 歴: ●京都大学理学部卒業 (物理学専攻) (1998年 3 月)
- 奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士前期課程修了 (2000年 3 月)
- 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程単位取得退学 (2004年 3 月)

学 位: 2000年修士 (工学) (奈良先端科学技術大学院大学)

所 属 学 会: 情報処理学会, IEEE

専 門 分 野: 情報ネットワーク, 自律分散協調型システム, モバイルコンピューティング, e-Learning

研 究 課 題: e-Learningシステムのデザインと効果分析, 自律分散ネットワーク, 大規模分散ストレージ及びデジタルアーカイブ, 自律分散音響測位システム

- 部局内貢献: ●EPOCH@まつやま実行委員 (2007年度～)
- eラーニング推進検討ワーキンググループ (2009年度～)

学外審議会・委員会活動:

- e-Knowledgeコンソーシアム四国企画委員
- システム専門委員 (2008年～)
- eまつやま最先端技術研究会理事 (2010年度～)
- 情報処理学会四国支部評議員 (2010年度～)
- Treasurer of IEEE Shikoku Section (2011年～)
- 国立国会図書館デジタルアーカイブシステム技術審査委員
- 日本Androidの会四国支部
- 愛媛情報セキュリティ研究会 (通称セキュリティみかん)
- オープンセミナー愛媛実行委員
- オープンソースカンファレンス愛媛実行委員
- 情報セキュリティシンポジウム道後実行委員

講 演 実 績: ●Moodle講習会 (2013年 3 月)

(1) 研究活動

【論文（過去5年間）】

中川 祐治

原著論文

- 背景領域削除による類似画像検索の検索精度向上, 栃原康介・中川祐治, 第3回楽天研究開発シンポジウム講演論文, pp.1-6, 2010

紀要・抄録

- 受講者観察システムにおけるSaccade有無の検出, 中北真偉・中川祐治, 電子情報通信学会技術研究報告Vol.112, No.300, pp.67-71, 2012
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 電子情報通信学会技術研究報告Vol.112, No.225, pp.41-45, 2012
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.236, 2012
- 受講者観察システムにおけるSaccadeの検出, 中北真偉・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.237, 2012
- 背景領域削除に対するピンぼけ度合いの影響評価, 吉本祐真・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.238, 2012
- GPUを導入した受講者観察システムの開発, 栃原康介・越智勇太・中川祐治, 平成23年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.19, 2011
- Android端末によるガイドシステムの構築, 中北真偉・宮内泰明・中川祐治, 平成23年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.20, 2011
- 類似画像検索のための背景領域削除, 栃原康介・中川祐治, 平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.148, 2010
- AndroidのGUIを用いたアプリケーション開発, 高木陽介・中川祐治, 平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.270, 2010
- Android端末での問診票アプリケーションの提案, 黒田史子・吉本祐真・中川祐治, 平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.271, 2010
- Android端末へのOpenCVの導入と評価, 兒玉崇志・中北真偉・中川祐治, 平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.272, 2010
- メタバースで計算幾何学の一発見を体験するシステムの開発, 中川祐治, CIEC2009PCカンファレンス論文集, pp.283-286, 2009
- 受講者観察システムの最適化における一考察, 平塚伸治・中川祐治, 平成21年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.215, 2009
- Open Simulatorにおける疑似体験システムの構築, 中川祐治・阪本頼則, 平成21年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.216, 2009
- 受講者観察システムのための目領域抽出, 小沢哲・笠井政史・中川祐治, 平成20年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.205, 2008
- ピンぼけ領域削除を用いた類似画像検索, 大塚秀之・中川祐治, 平成20年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.204, 2008
- 2方向の微少移動から生成される超解像画像, 平塚伸治・中川祐治, 平成20年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.203, 2008

野口 一人

原著論文

- Development of Terabit-scale Compact Hierarchical Optical Cross-connect System Using Planar Device Integration, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, IEEE Journal of Lightwave Technology, Vol. 29, No. 4, pp. 449-455, 2011
- Multi-hop Signal Transmission Experiments Employing PLC-based Hierarchical Optical Cross-connect System, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 22, No. 21, pp. 1586-1588, 2011
- Full-mesh wavelength channel assignments over interconnected star-shaped networks employing coprime-channel-cycle arrayed-waveguide gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, H. Takahashi, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 22, No. 5, pp. 302-304, 2010
- Wavelength Path Reconfigurable AWG-STAR Employing Coprime-Channel-Cycle Arrayed-Waveguide Gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, S. Kamei, H. Takahashi, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 21, No. 14, pp. 1005-1007, 2009

国際学会発表論文

- K. Noguchi, M. Kawataki, E. Abe, H. Uose, and S. Urushidani. "Remote Seminar Trial of Fetal Echocardiography over SINET4," The 6th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2012.
- High-speed Reliable Transmission System for Super Hi-vision Transmission over Global IP Network, Ogawara, M. Nomura, T. Fujii, K. Noguchi, T. Yamaguchi, K. Kawazoe, Y. Shishikui, Y. Nojiri, IBC 2011, Cutting Edge Technologies II - Signal Processing & Imaging, 2011
- Crosstalk calculation technique for implementing on simulator of photonic network, T. Sakai, D. Hanawa, K. Noguchi, T. Sakamoto, K. Oguchi, TSP 2011 - 34th International Conference on Telecommunications and Signal Processing, 2011
- Compact 4x4 Optical Cross-connect with Add/Drop Ports using PLC Technology, K. Noguchi, O. Moriwaki, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, M. Okuno, OFC/NFOEC 2011, NThB2, 2011
- Software Simulator Prototype for Wavelength Routing Network Design, T. Sakai, D. Hanawa, K. Noguchi, T. Sakamoto, K. Oguchi, TSP 2010-33rd International Conference on Telecommunications and Signal Processing, pp. 363-366, 2010
- Terabit-scale compact Hierarchical Optical Cross-connect System Employing PLC Devices and Optical Backplane, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, OFC/NFOEC 2010, PDP C9, 2010
- Full-mesh wavelength routing over interconnected AWG-STARs Employing Coprime-Channel-Cycle Arrayed-Waveguide Gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, H. Takahashi, ECOC 2009, P3. 09, 2009
- Wavelength path reconfigurable AWG-STAR employing coprime-channel-cycle arrayed-waveguide gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, S. Kamei, H. Takahashi, OFC/NFOEC 2009, OMG4, 2009
- Empirical Design Technique for Management and GMPLS-Signaling Communication Networks, A. Taniguchi, Y. Tsukishima, W. Imajuku, K. Shimizu, R. Hayashi, I. Inoue, K. Noguchi, M. Jinno, S. Urushidani, APCC 2008, 2008

紀要・抄録・報告

- 研究教育ネットワークを使った遠隔医療実験, 野口一人, 電子情報通信学会誌, Vol. 94, No. 3, pp. 192-198, 2011
- グローバルな研究教育用IPネットワークを用いたスーパーハイビジョン国際伝送実験, 野尻祐司・井口和久・野口一人・藤井竜也・小河原成哲, 放送技術, Vol. 64, No. 6, pp. 135-142, 2011
- GEMnet2を使ったスーパーハイビジョン国際伝送実験, 野口一人・山口高弘・川添雄彦・鹿喰善明・野尻祐司, NTT技術ジャーナル, Vol. 23, No. 3, pp. 84-87, 2011
- GEMnet2: Overview and Activity, K. Noguchi, NTT Technical Review, Vol. 7, No. 2, pp. 1-4, 2009
- Transmission of High-definition Video Stream Using GEMnet2, Kazuto Noguchi, Tetsuo Kawano, NTT Technical Review, Vol. 7, No. 2, pp. 5-8, 2009
- 研究者の連携を目指して, 野口一人, NTT技術ジャーナル, Vol. 20, No. 2, p. 60, 2008

2. 教育研究実績

(1) 研究活動

- GEMnet2の概要, 近藤好次, 小野大泰, 野口一人, NTT技術ジャーナル, Vol. 20, No. 2, pp. 34-37, 2008
- GEMnet2による科学, 医療アプリケーション実験, 野口一人, NTT技術ジャーナル, Vol. 20, No. 2, pp. 54-57, 2008
- IP伝送による世界初の非圧縮HD国際生中継, 原田啓司・川野哲生・野口一人・魚瀬尚郎, NTT技術ジャーナル, Vol. 20, No. 2, pp. 38-41, 2008
- GEMnet2におけるAWG-STARの実証実験, 野口一人・森脇修・岡田顕, NTT技術ジャーナル, Vol. 20, No. 2, pp. 42-45, 2008

川原 稔

原著論文

- 視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・荻田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp. 42-54, 2012.
- Contention resolution considering multicast traffic in optically burst-switched WDM networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 23, No. 2, pp. 157-165, 2012.
- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.
- Contention resolution considering multicast traffic in optically burst-switched WDM networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer Netherlands, pp. 1-9, 2011
- Parallel and multi-wavelength downloading in optical grid networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer Netherlands, Vol. 22, No. 3, pp. 245-253, 2011.
- データマイニングによる学習管理システムログからの学習行動と効果の関係導出, 明賀啓太・佐々木隆志・川原稔, 可視化情報学会第37回可視化情報シンポジウム講演論文集, pp. 83-88, 2009.
- コンテンツ類似度に基づいたP2Pネットワークの自己組織化アルゴリズム, 遠藤慶一・最田健一・川原稔・高橋豊, 電子情報通信学会論文誌, Vol. J91-D, No. 6, pp. 1494-1505, 2008
- Encoding for Secure Computations in Distributed Interactive Real-time Applications, Keiichi Endo, Minoru Kawahara, and Yutaka Takahashi, Computer Communications, Vol. 31, No. 9, pp. 1679-1686, 2008

国際学会発表論文

- Replica caching scheme according to status of neighboring nodes in optical grid networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, the 2nd IFIP International Conference on Network of the Future (NoF 2011), CD-ROM, 2011.
- Replica selection for parallel and multi-wavelength downloading in optical grid networks, Hirata, K. and Kawahara, M., 4th Workshop on Network Control and Optimization (net-coop '10), pp. 82-89, 2010.

紀要・抄録・報告

- Webデザインが視覚障がい者のユーザビリティに与える影響についての一実証報告, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会 教育工学研究会 信学技報ET2011-43, Vol. 111, No. 213, pp. 41-46, 2011.
- 光バースト交換網におけるマルチキャストを考慮した競合回避手法, 平田孝志・川原稔, 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会信学技報NS2010-166, Vol. 110, No. 448, pp. 19-24, 2011.
- 光グリッドネットワークにおける複数波長を用いた並列ダウンロード手法, 平田孝志・川原稔, 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会信学技報NS2010-88, Vol. 110, No. 286, pp. 1-6, 2010.
- ロービジョン者のパソコン操作環境を最適化するための視覚特性評価キットの開発, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会教育工学研究会信学技報ET2010-36, Vol. 110, No. 209, pp. 61-66, 2010.

和田 武

原著論文

- CMS小テスト問題分析による授業改善の試み, 和田武, 学術情報処理研究, pp. 167-173, No. 16, 2012.
- 研究開発用ネットワークを活用した遠隔合唱実験, 和田武・井上洋一・田邊隆・永井明・三原義樹, 教育情報研究, Vol. 27, No. 2, pp. 23-29, 2011.
- 基礎数学・基礎物理学リメディアル教材の製作, 和田武・矢野忠, 大学情報システム環境研究, Vol. 14, pp. 98-104, 2011.

2. 教育研究実績

(1) 研究活動

- グループ別にみられる教育効果の違い－学習ニーズの向上と習得した知識量および今後の学習意欲－, 和田武・南本長穂, 教育情報研究, Vol. 24, No. 2, pp. 37-46, 2008.

紀要・抄録・報告

- 心が動く, 心がつながる, 生きた音楽を求めて－子どもから大人へ, 楽しく, 感動する音楽活動の場の創造－, 楠俊明・石川貴恵・来嶋英生・井上洋一・田邊隆・和田武, 愛媛大学教育学部初等教育研究紀要, Vol. 44, pp. 133-144, 2011.
- 心が動く, 心がつながる, 生きた音楽を求めて－子どもから大人へ, 美しく感動する音楽活動の場の創造－, 愛媛大学教育学部附属中学校研究紀要, Vol. 63, pp. 101-108, 2011.

仲道 雅輝

原著論文

- 『科目ガイダンスVOD』を基軸としたFD－全学的なe-Learning推進を実現する教員の意識改革－, 仲道雅輝・松葉龍一・江川良裕・大森不二雄・鈴木克明, 日本教育工学会論文誌33 (増刊号): pp. 25-28, 2009.

国際学会発表論文

- Promotion of University-Wide e-Learning as Part of Faculty Development Activities, Nakamichi, M., Sato, S. and Suzuki, K., A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education), Beijing, china. 2012.
- Promotion of University-Wide e-Learning through Course Guidance VODs-A Case study at Nihon Fukushi University-, Masaki Nakamichi, Ryuichi Matsuba, Yoshihiro Ekawa, Fujio Ohmori, Katsuaki Suzuki, A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education) Seoul National University, Korea. pp. 93-100, 2009.

紀要・抄録・報告

- 国立大学法人におけるe-Learning推進の取り組み～私立大学での実践成果から～, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, VOL. 2, NO. 1, pp. 23-26, 2012.
- 愛媛大学「FDカレンダー」によるFD活動の普及に関する取組～学習動機を高める6つのコツ～, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, VOL. 1, NO. 1, pp. 21-24, 2011.
- 全学的なe-Learning普及施策を踏まえた教員のe-Learningへの意識変容に関わる研究～教員ヒアリング結果より～, 仲道雅輝・佐藤慎一・鈴木克明, 日本教育メディア学会第19回年次大会講演論文集, pp. 55-56, 2012.
- パリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育（新入生セミナー）の効果検証, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第28回全国大会講演論文集, pp. 279-280, 2012.
- 全学的にe-Learning普及推進する仕掛けの提案－日本福祉大学を事例として－, 仲道雅輝・佐藤慎一・喜多敏博・中野裕司・大森不二雄・鈴木克明, 教育システム情報学会第35回全国大会発表論文集, pp. 23-24, 2010.
- 『科目ガイダンスVOD』の次なる仕掛け－学習支援システムの活用とICT活用能力の向上－, 仲道雅輝・佐藤慎一・松橋秀親・松葉龍一・江川良裕・鈴木克明, 日本教育工学会第25回全国大会発表論文集P1p-FLS-35, 2009.
- 『科目ガイダンスVOD』に類似する取組の訪問調査－全学的なe-Learning推進へのポイント－, 仲道雅輝・松葉龍一・江川良裕・大森不二雄・鈴木克明, 教育システム情報学会 第34回全国大会発表論文集, pp. 514-515, 2009.
- 『科目ガイダンス』VODを基軸としたFD－全学的なe-Learning推進を実現する教員サポートサービス－, 仲道雅輝・齋藤真左樹・竹生久美子・松葉龍一・江川良裕・鈴木克明, 日本教育工学会 第24回全国大会発表論文集P2a-C202-34, 2008.
- 『科目ガイダンス』VODを基軸とした全学的なe-Learning推進－日本福祉大学を事例として－, 仲道雅輝・齋藤真左樹・竹生久美子・松葉龍一・江川良裕・鈴木克明, 教育システム情報学会第33回全国大会発表論文集, pp. 128-129, 2008.

佐々木隆志

原著論文

- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.

2. 教育研究実績

(1) 研究活動

- データマイニングによる学習管理システムログからの学習行動と効果の関係導出, 明智啓太・佐々木隆志・川原稔, 第37回可視化情報シンポジウム講演論文集, pp. 83-88, 2009

紀要・抄録・報告

- Webデザインが視覚障がい者のユーザビリティに与える影響についての一実証報告, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会 教育工学研究会 信学技報ET2011-43, Vol. 111, No. 213, pp. 41-46, 2011.
- ロービジョン者のパソコン操作環境を最適化するための視覚特性評価キットの開発, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会教育工学研究会信学技報ET2010-36, Vol. 110, No. 209, pp. 61-66, 2010.

(2)学会発表等

中川 祐治

- 受講者観察システムにおけるSaccade有無の検出, 中北真偉・中川祐治, 電子情報通信学会「教育工学」研究会, 佐賀大, 2012年11月17日
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 電子情報通信学会「パターン認識・メディア理解」研究会, 幕張メッセ国際会議場, 2012年10月4日
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会, 四国電力(株)総合研修所, 2012年9月29日
- 受講者観察システムにおけるSaccadeの検出, 中北真偉・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会, 四国電力(株)総合研修所, 2012年9月29日
- 背景領域削除に対するピンぼけ度合いの影響評価, 吉本祐真・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会, 四国電力(株)総合研修所, 2012年9月29日

野口 一人

- 情報通信ネットワークを活用した各種実験, 野口一人, 電子情報通信学会四国支部講演会, 2012
- 波長ルーティングネットワークにおけるクロストーク算出法の検討, 坂井智紀・塙大・野口一人・阪本匡・高橋哲夫・小口喜美夫, 2012年信学会総合大会, B-12-27, 2012

和田 武

- 英語俳句投句支援システム構築に向けたメーリングリストからの特徴抽出, 和田武, 国公立大学情報システム研究会, 2013
- CMS小テスト問題分析による授業改善の試み, 和田武, 第16回学術情報処理研究集会, B2-3, 2012
- 現代テスト理論に基づく小テスト問題の分析, 和田武, 2012PC Conference, pp. 187-188, 2012. 8

仲道 雅輝

- 全学的なe-Learning普及施策を踏まえた教員のe-Learningへの意識変容に関わる研究～教員ヒアリング結果より～, 仲道雅輝・佐藤慎一・鈴木克明, 日本教育メディア学会第19回年次大会, 東北学院大学, 2012
- パリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育(新入生セミナー)の効果検証, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第28回全国大会, 長崎大学, (教育評価・データ解析セッション: 座長) 2012

佐々木隆志

- みんなでおでんきPJ～ソーシャルコンセンツの実装～, 松重雄大・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二(愛媛大学), 鈴木信・兼築史季(パルソフトウェアサービス)・早田洋一(エス・ピー・シー)・山田芳郎(愛媛大学), 情報処理学会情報システムと社会環境研究会, 2013年3月
- みんなでおでんきPJ～スマートメータシステムの実装～, 二宮政浩・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二(愛媛大学)・鈴木信・兼築史季(パルソフトウェアサービス)・早田洋一(エス・ピー・シー)・山田芳郎(愛媛大学), 情報処理学会情報システムと社会環境研究会, 2013年3月

(1)教育活動

【講 義】

中川 祐治

1)講義（情報科学）

- 2012年度前期，情報科学，139名，共通基礎教育科目，学部
- 2012年度前期，情報科学，97名，共通基礎教育科目，学部

2)講義（情報科学以外）

- 2012年度前期，自然の法則（シェアリングネイチャー），23名，教養教育科目，学部
- 2012年度前期，環境ESD（環境ESD指導者養成講座Ⅱ），14名，教養教育科目，学部
- 2012年度前期，卒業研究Ⅱ，1名，専門教育科目，学部
- 2012年度前期，数学セミナーⅠ，4名，専門教育科目，学部
- 2012年度前期，数理科学ゼミナールⅠ，1名，専門教育科目，修士
- 2012年度前期，数理科学ゼミナールⅢ，1名，専門教育科目，修士
- 2012年度後期，環境ESD（環境ESD指導者養成講座Ⅰ），30名，教養教育科目，学部
- 2012年度後期，コンピュータ基礎，53名，専門教育科目，学部
- 2012年度後期，数理科学特論，9名，専門教育科目，修士
- 2012年度後期，数理科学ゼミナールⅠ，1名，専門教育科目，修士
- 2012年度後期，数理科学ゼミナールⅡ，1名，専門教育科目，修士
- 2012年度後期，数理科学ゼミナールⅣ，1名，専門教育科目，修士

野口 一人

1)講義（情報科学）

- 2012年度前期，情報科学，140名，共通基礎教育科目，農学部
- 2012年度前期，情報科学，180名，共通基礎教育科目，法文学部

2)講義（情報科学以外）

- 2012年度前期，情報ネットワーク，90名，専門教育科目，工学部
- 2012年度前期，電気磁気応用特論（オムニバス），27名，専門教育科目，修士
- 2012年度前期，ネットワークシステム特論Ⅰ，8名，専門教育科目，修士
- 2012年度後期，ネットワークシステム特論Ⅱ，4名，専門教育科目，修士

川原 稔

2)講義（情報科学以外）

- 2012年度後期，情報ネットワーク特論，21名，専門教育科目，修士

和田 武

1)講義（情報科学）

- 2012年度前期，情報科学，51名，共通基礎教育科目，法文学部

2)講義（情報科学以外）

- 2012年度前期，教育情報・メディア論，集中，32名，専門教育科目，理学部
- 2012年度前期，データベース論，20名，専門教育科目，教育学部
- 2012年度前期，データベース演習，20名，専門教育科目，教育学部
- 2012年度前期，プロジェクト研究Ⅰ，2名，教育学部
- 2012年度前期，教材研究の基礎理論（情報），1名，教育学研究科修士課程
- 2012年度後期，プログラミング言語Ⅰ，11名，専門教育科目，教育学部

3. 教育活動及び教育支援

(1) 教育活動

- 2012年度後期, プログラミング演習Ⅰ, 11名, 専門教育科目, 教育学部
- 2012年度後期, 人間科学情報処理, 1名, 専門教育科目, 法文学部
- 2012年度後期, 人文学情報処理演習A, 34名, 専門教育科目, 法文学部
- 2012年度後期 プロジェクト研究Ⅱ, 2名, 教育学部

仲道 雅輝

2) 講義 (情報科学以外)

- 2012年度前期, 「新入生セミナー」, 50名, 初年次科目, 共通教育
- 2012年度前期, 「愛媛大学リーダーズスクール」, 30名, 発展科目, 共通教育
- 2012年度前期, 「高大連携授業」, 愛媛大学附属高等学校2年生, 80名, 附属高校
- 2012年度前期, 「発展的ICT総合科目Ⅰ」大学院ICTスペシャリストコース, 3名, 大学院
- 2012年度後期, 「愛媛大学リーダーズスクール」, 30名, 発展科目, 共通教育
- 2012年度後期, 「倫理と生き方」, 80名, 教養科目主題科目／知の展開科目, 共通教育
- 2012年度後期, 「高大連携授業」, 愛媛大学附属高等学校1年生, 80名, 附属高校
- 2012年度後期, 「ライフ・マネジメント, セルフ・リーダーシップ」, 26名, 集中, 発展科目, 共通教育

佐々木隆志

1) 講義 (情報科学)

- 2012年度前期, 情報科学, 共通基礎教育科目, 学部

【論文指導】

中川 祐治

- 2012年度 卒業論文指導 学生数 1名

川原 稔

- 2012年度 卒業論文指導 学生数 3名
- 2012年度 修士論文指導 学生数 1名

和田 武

- 2012年度 卒業論文指導 学生数 1名

【論文審査】

野口 一人

- 2012年度 博士論文審査数 (副主査) 1名
- 2012年度 修士論文審査数 (副主査) 2名
- 2012年度 博士後期課程外国人留学生特別選抜試験担当 1名

川原 稔

- 2012年度 修士論文審査数 (主査) 1名

(2) 教育支援

【授業改善】

仲道 雅輝

- 教育デザイン室の設置による授業設計支援

愛媛大学におけるe-Learningを活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要として「教育デザイン室」（インストラクショナル・デザイン・オフィス）を設置し、ICTを活用した授業設計を支援する体制を整備した。

教育デザイン室は、科目担当者の個別の授業改善を支援するほか、学部の教育改革に伴うカリキュラム改善に関わる支援など、ICTを活用した教育方法の提案を行っている。各授業では、科目担当教員は、日々の授業や業務の合間の時間を活用して授業設計の改善に取り組むことができるよう、専属の担当者がインストラクショナル・デザイン(教育設計)手法を用いた個別の支援を行っている。また、授業設計やカリキュラム設計、フィールドワークと対面授業の効果的な授業設計、e-Learningと対面授業の効果的な授業設計等についても支援している。

- 授業コンサルテーション、2012年 法文学部1回、教育学部1回、教育学生支援機構2回

- FD研修会講師

「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法（学内2回、学外1回）」、教育・学生支援機構、2012年7月、2013年1月

「授業デザインワークショップ」、教育・学生支援機構、2012年7月

「教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ」、教育・学生支援機構、2012年9月

「e-Learning入門」、教育・学生支援機構、2013年3月

【サークル等活動指導】

中川 祐治

- キリスト者学生会（KGK）顧問

和田 武

- SCVメディアサポーターズ映像部顧問（～2013年前期）

仲道 雅輝

- SCVメディアサポーターズ映像部顧問

(1) 研究成果

中川 祐治

●Androidタブレットによるガイドシステムの開発

博物館や美術館の一部では、展示物の情報を見学者に提示するガイドシステムが提供されている。我々は、このガイドシステムをAndroidタブレット用アプリケーションとして開発した。本ガイドシステムでは、タブレット内蔵のカメラで、展示物近傍に貼付されたマーカを画像認識することで展示物を同定し、見学者が望む展示物の情報をタブレット画面上で選択することで提示することができる。また、音声以外にも文章や写真・映像などの情報を扱うことができ、専用の機械を用意する必要がない。入力画像におけるマーカの直径が45pixel以上で、見込み角が40度以内であるという条件を満たす場合、マーカをほぼ100%認識できることを確認した。

●受講者観察システムにおけるSaccade有無の判別

高等教育機関や企業においてe-Learningが普及し、多くの教育がPCとLMSまたはCMSによって実施されるようになってきた。我々はe-Learningでの学習において受講者の集中度を把握しフィードバックできれば、限られた時間で効率よい学習が可能となることから、眼球運動のうちSaccadeと呼ばれる高速跳躍運動の検出とその発生頻度から学習への集中度を検出する。しかし、通常の学習環境での照明条件やPC内蔵のカメラの性能などから、Saccadeの検出効率が低下することが確認されている。そこで、検出効率が低下している状況でもSaccadeの有無を検出できる手法を開発し、Saccadeの検出確率と誤検出数の測定とSaccade検出効率の測定を行った。その結果、Saccadeの検出確率は71.1%、誤検出数は総検出数の11%、Saccade検出効率は80から90%を中心とする正規分布又はそれに類する分布となることが分かった。さらに、統計的処理によりSaccade有無の判別を行えるようにした。

野口 一人

●光デバイスに関する研究

強誘電体であるニオブ酸リチウム (LiNbO_3) は、優れた電気光学特性、音響光学特性、非線形光学特性を有しており、光通信システムにおける光変調器、TVや携帯電話における中間周波数 (IF) フィルタ、小型振動子、光ジャイロなど様々な分野で使用されている。

光通信の分野では、光源である半導体レーザの後段に接続される外部光変調器として研究開発が進み、今日の長距離・大容量情報通信ネットワークを支えるキーデバイスの一つである。現在もなお、将来の大容量化を目指して高性能化を目指した研究開発が進められている。今まで進めてきた LiNbO_3 光変調器の設計、製造、評価に関する研究成果と他の研究機関における最新の研究成果をまとめ、著書にした。

現在、光変調器のさらなる高性能化を図るとともに、焦電効果、分極反転など LiNbO_3 の様々な特性を活かした光センサの研究を進めている。有限要素法による数値シミュレーションを開始した。

●遠隔医療教育に関する研究

ICT技術の高度利用と地域貢献のため、遠隔医療教育に関する研究を進めている。平成24年11月3日、4日の2日間、東京都千代田区の国立情報学研究所講堂で開催された第47回神奈川胎児エコー研究会アドバンス講座を愛媛大学医学部まで遠隔中継し、愛媛県内の産婦人科医を集めて遠隔セミナーを開催した。

図1に接続構成図を示す。国立情報学研究所を主会場とし、愛媛大学医学部、金沢大学、琉球大学、弘前大学を

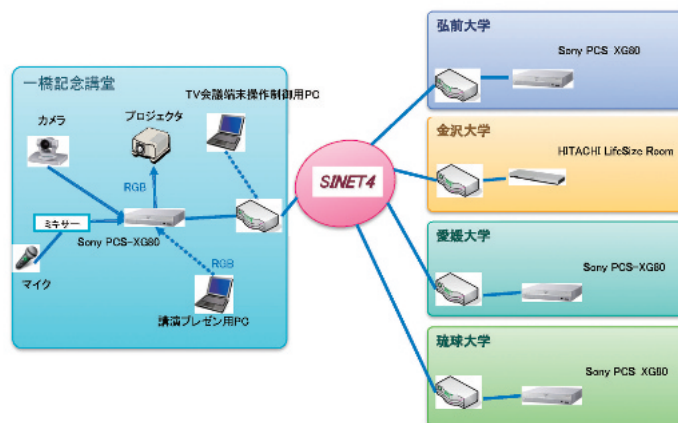


図1 アドバンスセミナー接続構成図

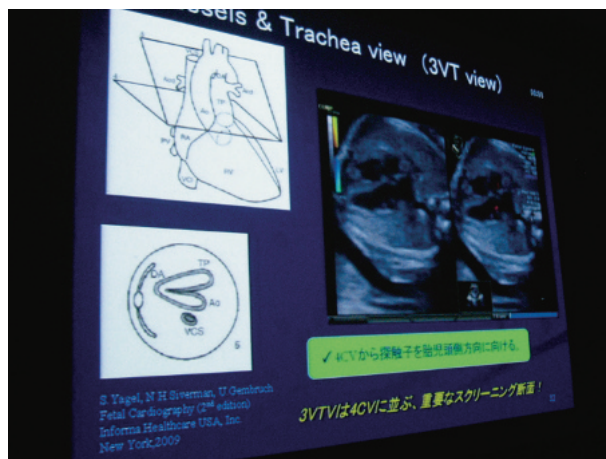


図2 東京会場から伝送され、スクリーンに投影された医療画像



図3 愛媛大学医学部会場の様子

SINET 4 で接続し、市販の高精細テレビ会議システムを使ってセミナーの内容を中継した。参加者は東京会場が302人、地方会場が合わせて116人であった。

図2に当日の状況を示す。愛媛大学医学部総合臨床研修センター備え付けの 프로젝タを用い、テレビ会議端末とカメラを設置して基幹ネットワークに接続した。通信状態をモニタしたところ、0.01%程度のパケット損失が発生していることが判明したが、誤り率訂正機能により画像、音声の乱れはなく、2日間のセミナーを滞りなく開催することができた。

図3にセミナー中の様子を示す。丸2日間にわたり、愛媛県立中央病院など愛媛県内の病院やクリニックの他に、広島県立中央病院、高知大学、大分県の産科医が参加し、胎児心エコーに関する最新の診断技術を受講した。

川原 稔

●情報ネットワーク

ネットワーク上に存在する情報通信デバイス（コンピュータやスマートフォン等）同士により自己組織化して、情報の共有やコンテンツの流通を行うことを可能とするオーバーレイネットワークに関する研究を進めている。それと共に、従来型の情報ネットワークの性能評価にかかわる研究も行っている。オーバーレイネットワークに関しては、情報通信デバイスが無線通信により自律的にネットワークを構成するアドホックネットワークを基盤として、無線通信の状態情報を基に地理的位置の特定や無線LAN環境の通信環境可視化についての研究を進めた。性能評価に関しては、データグリッドにおいて光ネットワークによる効率的なデータ配信アルゴリズムに関する研究と、愛媛大学ネットワークをネットワークシミュレータns-3により忠実に再現したシミュレーション環境を構築した。

平成24年度は当該分野において、論文誌に2件が採録決定された。

●データマイニング

ネットワークやコンピュータの処理能力が高まるにつれて、扱わなければならない情報の量は莫大になっている。そ

の中から有用な情報や目的の情報を抽出するためには、高速で自動的な知識抽出技術が不可欠となる。知識抽出技術としてデータマイニングが注目されて久しいが、この技術を用いて情報検索に対する援用に関する研究を行っている。近年では、学習管理システムに記録される学習行動記録から、学習に有効・効果的あるいは逆効果な行動を導出して、指導に役立てられる知識を導出する研究も行っている。当研究により、eラーニングにおける学習記録の方法論、及び、学習記録から知見を導出する各種のアルゴリズムの研究開発を行うことができ、平成24年度は実証実験を行った。

●医療情報学

視覚障がいをもつ人々がICT（情報通信技術）を活用して、情報収集やeラーニング学習を効果的に行えるようなICT環境、特に情報デバイスの最適化に関する研究を行っている。平成21～23年度は、特にロービジョン者の視覚特性を正確に計測する技術開発に焦点を当てて研究を進めてきた。その結果、一般に流通している情報デバイスを用いて医療機器に匹敵する視覚特性を計測可能となる手法の開発に成功し、現在も研究開発を進めている。

平成24年度は当該分野において、論文誌1件が採録された。

和田 武

●インターネットHAIKUサーバの運用管理とデータベースの構築

国際交流の強化・地域社会への貢献を目的として、正岡子規のインターネット俳句サーバSHIKIを運用・管理している。SHIKIを通じて積極的な情報発信を行っており、データベース機能を追加した俳句検索・投句支援システムの開発を行っている。更に、HAIKU WikiやHAIKU SNSのサイト運用についても検討を重ねている。本研究は、2012年3月の情報処理学会第74回全国大会において「英語俳句メーリングリストからの知識抽出」の研究テーマで発表した。また、2013年3月に国公立大学情報システム研究会で「英語俳句投句支援システム構築に向けたメーリングリストからの特徴抽出」の研究テーマで発表を行った。

●テスト理論に関する研究

Moodle（Course Management System）の多肢選択方式等を用いた小テストによる成績評価が数多く実施されているが、作成した問題の内容によっては、正解率に大きな差が生じて正当な評価ができない場合がある。そこで、受験者の学習評価や指導内容と学習達成度の整合性などを分析し、試験問題の難易度や受験者の能力値といった特性を定量化する項目反応理論やラッシュ測定理論などの現代テスト理論による分析が行われている。2012年8月に2012PC Conferenceで「現代テスト理論に基づく小テスト問題の分析」の研究テーマで発表した。また、2012年9月の第16回学術情報処理研究集会で「CMS小テスト問題分析による授業改善の試み」の研究テーマで発表を行った。

●e-Learningによる基礎数学及び基礎物理学の学習

理学部ELサポータの協力も得て、高校数学及び物理学の未修学生のための補習教育や、習得レベルの向上を目指した自学自習システムをe-Learningシステム上に構築し、新入学生の数学及び物理学の基礎的知識の底上げ可能なシステムの開発及び運用を行っている。本研究は、大学情報システム環境研究Vol.14に「基礎数学・基礎物理学リメディアル教材の製作」の研究テーマで発表している。

仲道 雅輝

●高等教育機関における全学的なe-Learning推進に関わる研究

本研究は、段階的に研究を進めている。

1段階目は、実践対象校において、履修登録前に学習目標や授業内容の確認を容易にするオンデマンド化された科目ガイダンスビデオを開発し、2008年度より本格的な利用を開始した。この導入により、全教員がe-Learningコンテンツ制作に関わることとなったためにe-Learning制作に対する不安や負担感を減少させることができた。その一方、シラバスの見直し、学習目標をより明確化する等のFD活動も活発化させ、ICTを活用したブレンド型授業が増加するなどの全学的な教育改善に進展してきている。本研究では、科目ガイダンスビデオの開発、視聴実施に至るまでの組織的な取り組みと、科目ガイダンスビデオ開発の効果を検証するために行った開発に携わった教員へのアンケート調査の結果を報告している。多くの教員は科目ガイダンスビデオの開発をかなり好意的に受け入れており、その視聴実施は受講生に対して十分な効果が認められるという考えをもっていることが分かった。本研究は、論文誌（日本教育工学会／増刊号（2009）（1本）採録、国際学会（教育メディア学会／ICOME2009）（1本）採録されている。

2段階目は、高等教育でのe-Learningの全学的普及に効果的な方策を見出し、今後の普及活動への示唆を得ることを目的としている。実践過程の仕掛けの紹介とともに、実践過程を振り返り、e-Learningの全学的な普及に向けて大学全体を巻き込んでいくための方策について、教員アンケートや導入段階から普及・定着の過程をまとめ考察している。結果、教員のe-Learningコンテンツ制作数の増加につながり、これらからICT活用による授業展開方法の周知等のe-

Learning普及に対する促進効果が示唆された。本研究を論文誌（教育システム情報学会）に投稿している（1本）。

研究報告としては、国内学会（日本教育工学会：2本、教育システム情報学会：4本）で発表している。

今後は、私立大学と国立大学法人での全学的なe-Learning推進に関わる学内マネジメントの重要性を含め、普及要因を普遍化し、広く高等教育機関にモデルとして提示していきたい。

●FD・SD活動の普及要因に関わる研究

FD活動の一環としてe-Learningの活用を大学全体で推進し、その効果をアンケートやインタビュー調査等をもとにした分析・考察を通して検証するものである。特に、e-Learning推進の過程を「導入」「普及」「定着」の三段階に分け、各段階における独自の取り組みについて研究を行っている。それらの取り組みの成果として、インタビューの回答等に現れた教員の意識改革についての考察を通じて、e-Learning推進がFD活動を促進させる一要因となっていることを明らかにしている。本研究は、論文として国際学会（教育メディア学会/ICOME2012）にて発表をしている（1件）。

今後は、教育改革・業務変革時における教職員の意識変容に関わる調査並びに効果検証等を行っていきたい。

●学生能力開発における成長過程に関わる研究

初年次教育や学生リーダーシップに関する研究を進めている。

初年次教育に関する研究では、実践対象校で初年次教育科目として開講している新入生セミナーを通じて、学習者の学ぶ姿勢を育成しているかどうかの効果検証及び調査項目の提案を行っている。その基礎となる調査項目の着眼点をパリッシュの「学習経験の要因モデル」の学習経験のレベルを左右する要因から探っていく。具体的には、学習状況に関わる要因と学習者個人に関わる要因があり、これらの要因によって、学習経験の質が変化すると捉えている。その中で、「学習者個人に関わる4要因」を基盤に調査項目を立案・調査・実施した結果を報告している。本研究は、国内学会（日本教育工学会第28回全国大会講演論文集）に発表している。

また、「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する研究」に関しては一つの経験から学び次の行動へつなげる小さな「学びのサイクル」を支援するだけでなく、個々人に適した次のステージへと誘うことで螺旋状に発達する大きな「学びのサイクル」を支援することをねらいとしている。また、学生のニーズや発達段階に応じた適切で継続的な支援を可能とするために、職員自身が学生の活動期間中又は活動終了後において自己の学生への関わり方等について省察を行う他、学生指導・支援に求められる資質能力や手法を獲得するための研修を継続的に受講すること等を通して学生とは異なる「自転」での学びのサイクルを回していく。学生、教職員の2つの学びのサイクルについて理論を用いながら解説し、それら2つのサイクルの有効性について報告するものである。本研究は、研究グループの一員として、国内学会（大学教育学会）での発表を予定している。

さらに「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」の研究を進めている。学生のリーダーシップを測定するために、米国で開発された「社会的責任リーダーシップ・スケール改訂版2（SRLS-R2, Dugan, 2006）」を活用し、学生の「リーダーシップ評価指標」策定に関する取り組みに着目し、評価指標の理論的枠組み及び策定プロセスについて考察を行っている。本研究は、研究グループの一員として、国内学会（大学教育学会）での発表を予定している。

今後は、学生が成長する過程において、どのような環境・状況等を体験する中で、成長のステップを踏んでいくのかを明らかにするとともに、普遍化し、成長過程モデルとして提示していきたい。

●インストラクショナルデザイン（ID）手法を活用した、効果的な授業方法（ICTを活用した授業改善・授業コンサルティング）に関する研究

本研究は、FD活動を全学的に普及させるため、FD活動の取り組みを紹介するポスターを作成し、1年中活用できるポスターとして、学年暦情報も同時に掲載するカレンダーを作成した。全教員の研究室及び学内各所に掲示され続けることで、FDイベントや研修会参加、授業コンサルティングサービス等を活用してもらうことを促進することが目的である。それだけではなく、毎年授業支援のテーマ内容を変更し、教員の興味関心・探究心を喚起させるものとして作成している。今回は、アクティブラーニングをテーマに「学習動機を高める6つのコツ」と称して、インストラクショナル・デザイン（ID）の代表的モデルのひとつである学習意欲動機づけのためのARCS動機づけモデルを活用し、Attention（注意）・Relevance（関連性）・Confidence（自信）・Satisfaction（満足感）の4要素から6つのティップスを抽出し、FDカレンダーに掲載している。本研究では、取り組みの要素をまとめ、普及要因に関する考察を行っている。全教員への普及に関する取り組みとして、実践対象校の実践事例を紹介している。本研究は、研究報告として、熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告集に掲載・発表している（1本）。

今後は、ICTを活用した授業や教材制作の取り組みを通じて、教育効果を検証するとともに実践報告として、広く高等教育機関にモデル事例として知見をまとめ、提示していきたい。

●組織開発・組織変革に関わる研究

本研究では、私立大学での全学的なe-Learning推進の実践研究成果を踏まえて、国立大学法人でのe-Learning推進の

4. 研究活動及び研究支援

(1) 研究成果

体制整備を行い、その経験から設置主体の種別にかかわらず、e-Learningに関心のある教員に向けて具体的な授業改善の方法を提示することが取り組みの初期段階として効果的であることが再確認された。また、実践対象校のe-Learning普及に革新的な変化をもたらす組織の構築及び効果的運用の必要性を明らかにする研究である。本研究は、e-Learningを活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要としての組織づくりと体制、取り組み内容について、運用と成果をまとめるとともに、今後の展望について、報告を行っている。本研究は、研究報告として、熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告集に掲載・発表している（1本）。

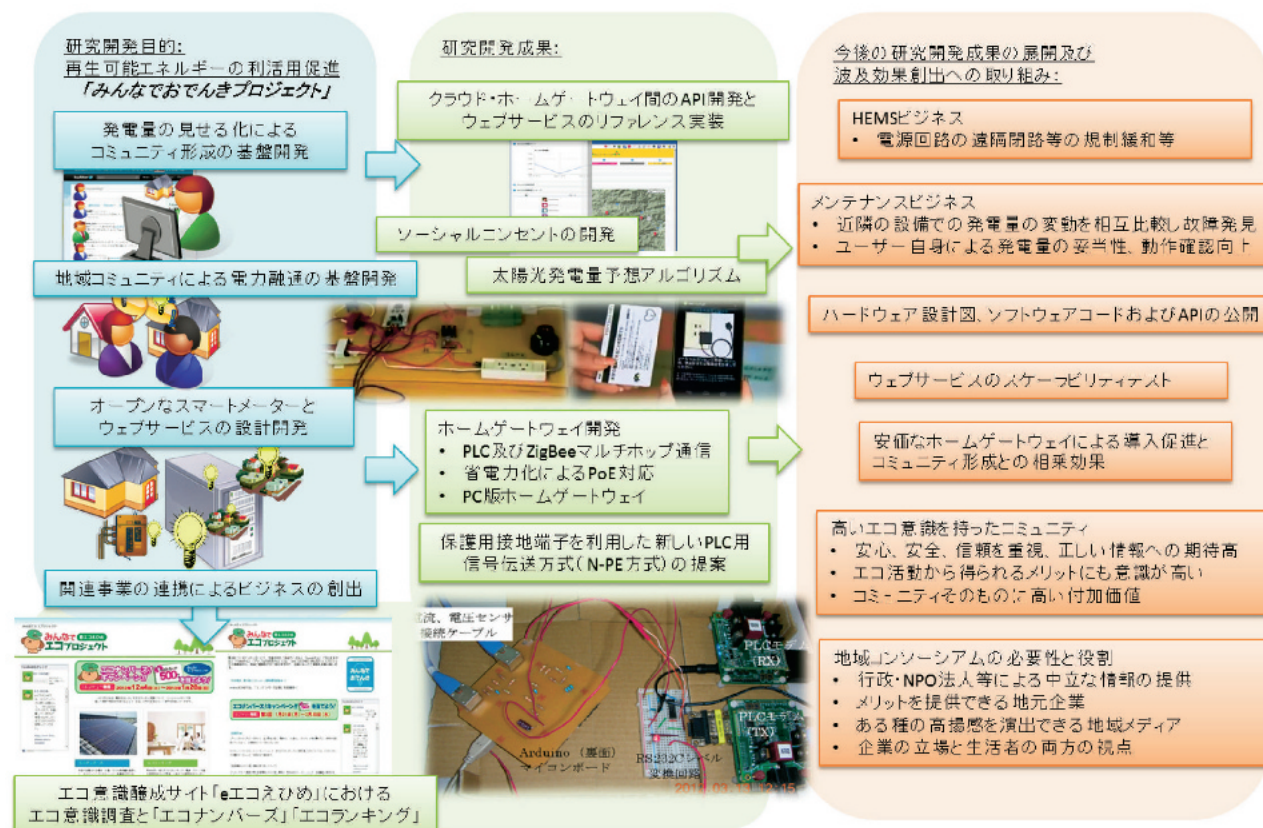
また、ブレンディッド型授業に取り組み始めた教員へのヒアリング調査を実施している。その結果、業務および授業のマネジメントを行うことのできる専門性の高い支援部門の確立の重要性を説き、e-Learningに対する教員の意識変容を考察している。本研究は、国内学会（日本教育メディア学会）において、発表をしている（1本）。

今後は、組織マネジメントや組織変革に関わる教職員へのアンケートやヒアリング調査を行い、検証を加え、その要因をまとめ、広く高等教育機関に知見として提示していきたい。

佐々木隆志

●スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進に関する取り組み

現在、持続可能な再生可能エネルギーの利用方法として、主に商用送電網に依存した余剰電力買い取りの仕組みが用いられている。しかし送電網に流入する電力の大幅な増減は系統安定を損なうことが予想され、また災害時には送電網の障害も想定されるため、商用送電網に依存しない地産地消型のエネルギー利用についての研究が求められている。本研究では再生可能エネルギーの利用や環境負荷軽減に関心のある人々のコミュニティ形成にも役立つようSNSを利用したコミュニティ及び地域単位での太陽光発電量の可視化と、そのために必要なホームゲートウェイ、加えて災害時にかけがえのない平常時においても役立つ電力地産地消の仕組みであるソーシャルコンセントを開発した。一般に防災は自助、共助、公助の組み合わせであるといわれるが、エネルギー利用に関しては自家発電による自助相当部分、商用送電網による公助相当部分しか存在せず、エネルギー共助についての取り組みが欠けていた。本研究はそのための一つの方法を提案するものである。本研究は総務省戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）の平成23年度新規課題「スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進基盤に関する研究開発（2年間）」として取り組んだ。なお、成果については平成25年6月にえひめITフェアで発表する予定である。



5. 業務関連

(1)沿革 (2)情報基盤システム

(1)沿 革

昭和41年3月 愛媛大学電子計算機室（学内共同利用施設）発足，HIPAC103（主記憶：4KW）導入
昭和50年2月 愛媛大学計算機室に名称変更
昭和50年3月 FACOM230-28（主記憶：96KB）を設置，九州大学大型計算機と専用回線で接続
昭和57年7月 情報処理センター発足
昭和57年11月 情報処理センター建物完成（835.3平方メートル）
昭和58年2月 FACOM M180IIADシステム（主記憶：12MB）導入
昭和58年3月 九州大学大型計算機センターと大学間ネットワーク（N1）手順により接続
昭和60年3月 DDX加入
昭和61年11月 FACOM M360AP（主記憶：24MB）に変更
昭和62年4月 FACOM M360APシステムに更新
平成2年1月 学術情報センターノード運用開始，DDX解除
平成2年10月 JUNET電子メールサービスの開始
平成3年2月 FACOM M770/6システム（主記憶：64MB）導入
平成4年2月 JAITに接続
平成4年5月 総合情報処理センター発足
平成5年12月 SINETノード設置
平成6年2月 FACOM M1600/6システム（主記憶：128MB），CONVEX C3440CTシステム導入
平成6年3月 学内ネットワーク（EUNET）の構築
平成9年11月 ATMネットワークシステムの構築
平成10年2月 S-7/7000Uモデル500，FACOM M1600/6システム導入
平成12年2月 総合情報処理センター建物完成（1,871平方メートル）
平成13年3月 学内ギガネットワークシステムの構築
平成14年2月 PRIMPOWER600，パソコンシステム導入
平成15年4月 総合情報メディアセンター発足
平成15年9月 総合情報メディアセンター・放送大学建物完成
平成18年2月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
平成19年6月 SINET3本格運用
平成22年3月 構内光ケーブル張替
平成22年10月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
平成23年3月 SINET4運用
平成23年4月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターに組織変更

(2)情報基盤システム

●システム構成概念

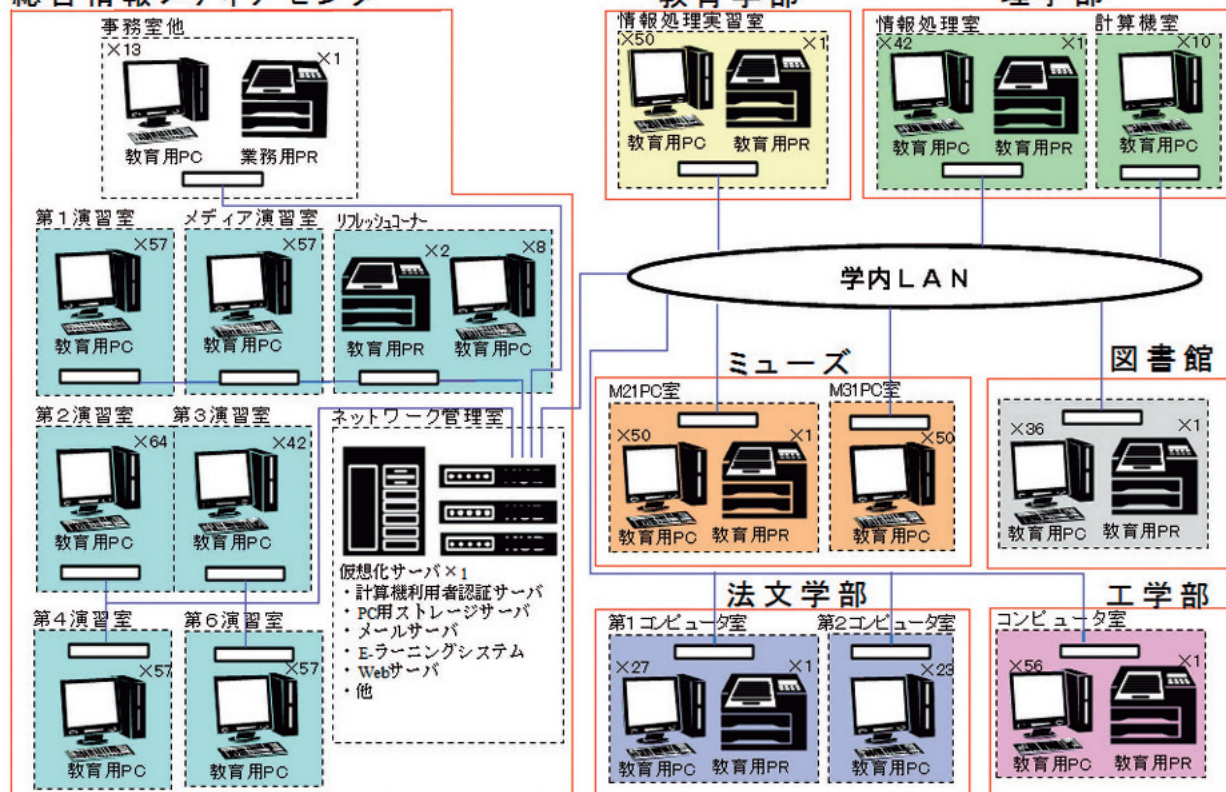
平成24年度のシステム概念は次のとおりです。

5. 業務関連

(2) 情報基盤システム

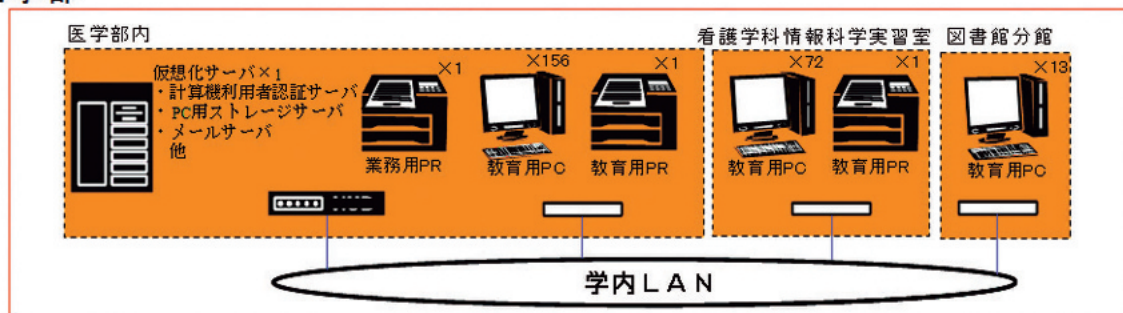
<城北地区>

総合情報メディアセンター



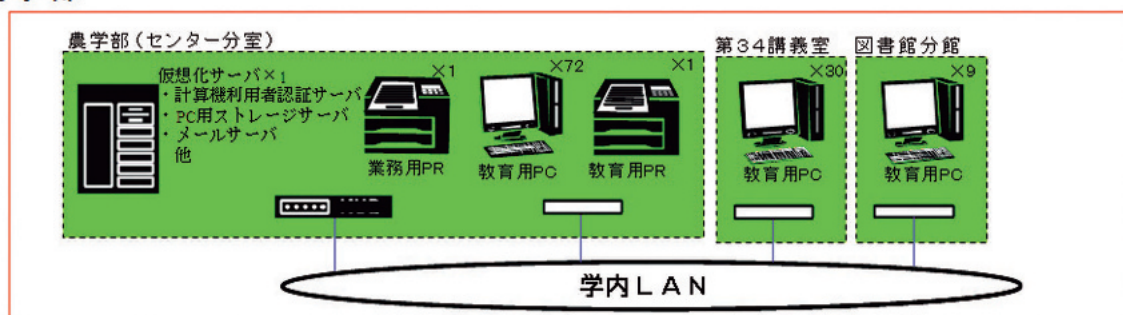
<重信地区>

医学部



<樽味地区>

農学部



● ソフトウェア一覧

各演習室で使用可能なアプリケーションソフトの、主な機能は次のとおりです。

【商用ソフトウェア】

一次のソフトウェアは、スタートメニュー内の各ソフトウェア名より使用可能です。

・ ArcGIS

地理・位置情報や関連情報を統合して、状況把握・分析、意思決定、問題解決、情報伝達を行うための情報活用システムです。

・ Microsoft Office Professional Plus 2010

ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、電子メール管理ツール (Outlook)、プレゼンテーションドキュメント編集ソフト (PowerPoint)、DTPソフト (Publisher)、データベース管理ソフト (Access)、XMLオーサリングツール (InfoPath)、インスタントメッセージングツール (Communicator) の使用が可能です。

・ Microsoft Visual Studio 2010

設計から、開発、テスト、配置までアプリケーションライフサイクルを広範囲にカバーし、Windows 7 を含めた最新のプラットフォームに対応するビジュアルデザイナーを利用して、開発者の自由なアイデアを形にすることができる統合開発環境が提供されます。

・ Roxio Creator LJB

CD-Rなどの対応している媒体にデータを書き込むことができるライティングソフトです。

一次のソフトウェアは、一部の限られた演習室で使用可能です。

・ Adobe Illustrator：メディアセンター 第1 演習室

高度な描画ツール、表現を可能にするブラシツール、作業時間を短縮する機能、Adobe CS Liveオンラインサービスとの連携などを兼ね備えたグラフィックソフトウェアです。

・ Adobe Premiere Elements：メディアセンター 第1 演習室

撮影したビデオクリップを読み込んで整理し、好みの方法で編集できるだけでなく、特殊効果やサウンド、テキスト、映画のようなモーションメニューで演出仕上げる事が可能なビデオ編集ソフトウェアです。

・ ホームページビルダー：農学部

ホームページ作成はもちろん、携帯用サイト、画像編集や動画編集まで幅広くこなすホームページ作成ソフトです。

・ AutoCAD：工学部 講義棟 4F コンピュータ室

2D CAD (2D: 二次元=平面) 業界標準であるDWGファイルを扱う、詳細な図面を作成するための製図用ソフトウェアです。

・ SolidWorks：メディアセンター各演習室、工学部 講義棟 4F コンピュータ室

3D CAD (3D: 三次元=立体)、設計検証、製品データ管理ソフトウェアに加えて、製品ドキュメント作成ソフトウェアまで幅広くカバーした製図用ソフトウェアです。

・ PASW：医学部 各演習室

統計解析・データ分析ソフトウェアです。豊富な分析メニューとグラフ機能により、高度な分析と分かりやすい結果を得ることが可能です。

【フリーソフトウェア】

一次のフリーソフトウェアは、スタートメニュー内のFree soft配下より使用可能です。

・ Adobe Reader

電子文書共有のためのPDF文書を開いて、表示、印刷、検索などを行える、PDF閲覧ツールです。

・ eclipse

オープンソースな統合開発環境です。

・ MIKATYPE

学校教育用に作成された、タッチタイプの練習ソフトです。

・ Symyx Draw

学術目的又は自宅での使用を対象とした化学構造描画ツールです。

・ 一太郎ビューア

一太郎文書及びXMLテンプレート文書を表示・印刷することができます。

- ・花子ビューア
花子文書をスライド表示・印刷することができます。
- ・3D AVS Player
AVS/ExpressやMicroAVSの可視化結果を4Dアニメーション（再生しながら視点変更が可能）で再生できるビューアです。
- ・ChemSketch
分子構造式を簡単に描くことができるソフトです。
- ・ActiveBasic 5.0
N88-BASIC互換プログラミング言語（フリーウェア）です。
- ・Cygwin
Unixで頻繁に使用されるシェルやコマンドなどのプログラムをWindows上でソースコードからコンパイルできるようにしたものです。
- ・GIMP
ビットマップグラフィック編集・加工ソフトウェアです。
- ・Google Earth
Google社が無料で配布しているバーチャル地球儀ソフトです。
- ・Jw_cad
2次元汎用CADアプリケーションソフトウェアです。
- ・MANDARA
表計算ソフト上の地域統計データを地図化することに適したソフトウェアです。
- ・Microsoft WSE
Microsoftが無償で配布している、Visual Studio.NETを使う開発者向けのWebサービス設計構築支援ツールです。
- ・Mozilla Firefox
Webブラウザです。
- ・NoEditor
テキストエディタです。
- ・OpenOffice
オープンソースな無料総合オフィスソフトウェアです。ワープロソフトや表計算ソフトなど、Microsoft Officeに準じたオフィスソフトを利用できます。
- ・QuickTime Player
アップル社が無料で配布している、QuickTimeフォーマット（.mov）やMP4フォーマット（.mp4）などの動画が再生可能なメディアプレーヤーです。
- ・R
統計解析向けプログラミング言語（フリーウェア）です。
- ・RealPlayer SP
リアルネットワークス社が無料で配布している、RealAudioフォーマット（.ra, .rm）や、RealVideoフォーマット（.rm, .rv, .rmvb）に対応したメディアプレーヤーです。
- ・セカンドライフビューア
リンデンラボ（Linden Lab）社が運営する、メタバース（インターネット上に存在する電子三次元空間＝バーチャル世界）にアクセスするためのソフトです。
- ・WinMOPAC
半経験的分子軌道計算プログラムです。Windows上で、分子を構築し、MOPACによる計算を行い、その計算結果をグラフィカルに表示することができます。
- ・WinROOF
画像処理・画像計測・データ処理を統合したソフトです。医学、工学、薬学、材料分析など幅広い分野で利用されています。計測結果を表計算ソフトに転送するといったデータの移行性にすぐれ、効率よくデータ処理を行うことができます。
- ・カシミール3D
3D地図ナビゲータです。地図ブラウザ機能を基本に、風景CG作成機能、GPSデータビューワ・編集機能、ムービ

ー作成機能、山岳展望機能などの多彩な機能を搭載しています。国土地理院の数値地図を始め、世界中の地図・地形データ、衛星・航空写真を使用できます。

ー次のフリーソフトウェアは、スタートメニュー以外の方法により使用可能なものです。

・Primo PDF

PDF文書を作成できるフリーウェアソフトです。ワープロソフトやテキストエディタ、表計算ソフトなどで作成した文書の印刷メニューより、プリンタの代わりにPrimoPDFを選択することで、簡単にPDF文書が作成できます。

・Borland C++

汎用プログラミング言語であるC++（シープラスプラス）をコンパイル（コンピュータ上で直接実行可能な機械語プログラムに変換する）するための統合開発環境です。コマンドプロンプト上で利用可能です。

・Open Watcom FORTRAN

プログラミング言語であるFORTRAN77をコンパイルするための統合開発環境です。コマンドプロンプト上で利用可能です。また、各種ツール類は、スタートメニューのFree soft内－Open Watcom FORTRAN配下より利用可能です。

・pLaTEX（ピーラテフ）

テキストファイルであるソースコードを入力として処理することでDVIやPDFなどの表示形式を出力として作成できます。高品質で自由度の高い組版処理能力（分数文字などの編集）が可能です。コマンドプロンプト上で利用可能です。

ー次のフリーソフトウェアは、一部の限られた演習室で使用可能です。

・SPBS：医学部 各演習室

日本語対話方式を採用することにより統計ソフトウェア自体の操作が簡単であることに加え、正規性検定、有意差検定、相関分析、回帰分析等の基本的な統計解析の結果を図示できることを主たる特徴とする統計解析・データ分析ソフトウェアです。

・NDPビューア：医学部 各演習室

浜松ホトニクス社のバーチャルスライドスキャナによるヴァーチャルスライドを閲覧するためのビューアです。Internet Explorerを利用しての閲覧となります。

・Skype：法文学部 第2 コンピュータ室（6台）

世界中のSkypeユーザと音声通話やテレビ電話が可能なコミュニケーションツールです。

●ネットワーク概念

平成24年度の情報基盤システムネットワークは次のとおりです。

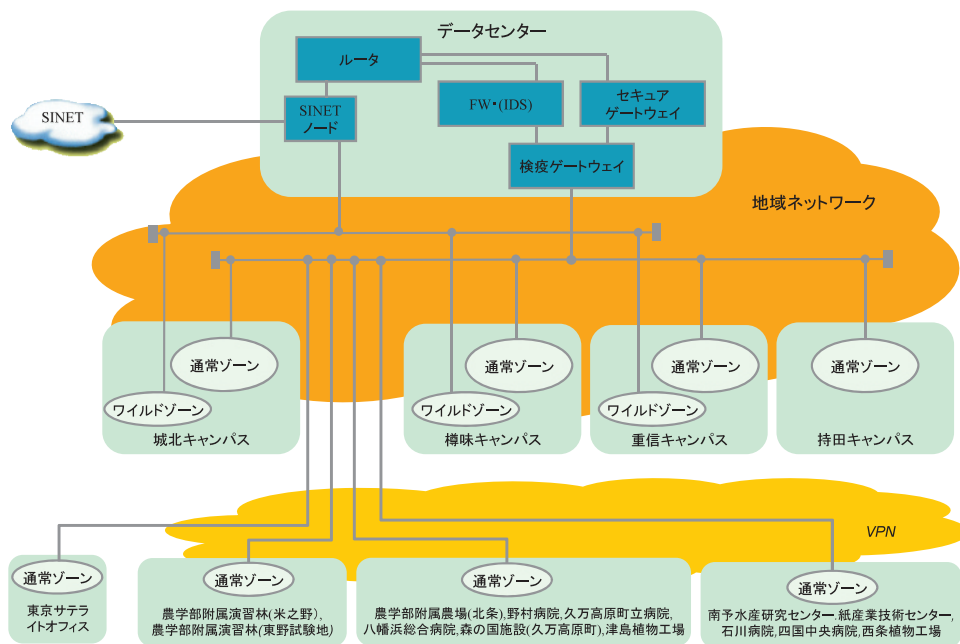


図 ネットワーク概念

(3) 事業実績

● 学術認証フェデレーション

本学も平成24年4月より学術認証フェデレーション（学認：GakuNin）に参加したため、様々な組織が提供するサービスを「愛媛大学アカウント」で利用することができます。

学認とは、学術e-リソースを利用する大学、学術e-リソースを提供する機関・出版社等から構成された連合体のことです。各機関はフェデレーションが定めた規程（ポリシー）を信頼しあうことで、相互に認証連携を実現することが可能となります。

愛媛大学の学認用認証画面は次のとおりです。

● セキュリティ関連

平成24年度中のセキュリティ関連事項は次のとおりです。

- ・愛媛大学情報セキュリティ関連規程等の整備（4月）
- ・愛媛大学情報システム利用上のガイドライン作成（7月）

● ネットワーク関連

平成24年度中に整備した情報基盤システムネットワーク関連は次のとおりです。

- ・京都大学学術情報メディアセンターとのVPN接続終了（4月）
- ・野村病院にADSL（40Mbps）増設（5月）
- ・医療法人愛媛会石川病院を光で接続（9月）
- ・地区間ネットワーク強化のためBB松山回線の増強（CWDM化）（2月）
- ・持田地区接続を100Mbpsから1Gbpsに変更（2月）
- ・南予水産研究センターと接続（3月）

● 施設整備他

平成24年度中に整備した施設は次のとおりです。

- ・メディアホールプロジェクタ・スクリーン設備更新（10月）
- ・地震対策のため棚などを固定（12月）
- ・第5演習室のパソコンをリフレッシュコーナー他に移動（12月）
- ・玄関ガラスの耐熱対策（12月）
- ・サーバ機室免震対策（3月）
- ・演習室プロジェクタ・スクリーン更新（3月）

5. 業務関連

(4) 利用状況

(4) 利用状況

平成23年度のセンター利用状況は次のとおりです。

● 情報基盤システム

申請種別	登録数
センターメール	39
パソコン	113
セキュアゲートウェイ	197
認証ゲートウェイ	347
メールサーバ（部局単位）	6
LMS利用アカウント	235
LMS利用（コース登録）	411

● 夜間開放・休日開放

夜間開放は、毎週月～金の17:00～21:00、休日開放（2007年9月から実施）は、10:00～17:00に第1演習室を開放しています。（ただし、夏季休暇及び冬季休暇中は除く）

	夜間開放利用者数	休日開放利用者数
2012年4月	281人	80人
2012年5月	655人	185人
2012年6月	875人	283人
2012年7月	1,066人	453人
2012年8月	－	－
2012年9月	11人	58人
2012年10月	765人	189人
2012年11月	997人	201人
2012年12月	735人	188人
2013年1月	910人	172人
2013年2月	338人	206人
2013年3月	－	－

● メディアホール

年 月	利用件数	年 月	利用件数
2012年4月	12	2012年10月	17
2012年5月	14	2012年11月	21
2012年6月	23	2012年12月	11
2012年7月	31	2013年1月	16
2012年8月	14	2013年2月	27
2012年9月	20	2013年3月	13

5. 業務関連

(4) 利用状況

● 演習室

平成24年度前期演習室使用予定表

曜日	時 限	8:30～10:00 1 時 限	10:30～12:00 2 時 限	12:50～14:20 3 時 限	14:40～16:10 4 時 限	16:20～17:50 5 時 限	18:00～19:30 6 時 限	19:40～21:10 7 時 限
月	第6演習室 (4階)＜56席＞		情報と現代社会 (看護、SSC1, 経済、環境、電気、産業2) 井門 俊	設 計 製 園 (工・3年) 高橋 学				
	第4演習室 (4階)＜56席＞	情報科学 (理学部)						
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞	中川 祐治		情報科学 (農学部)				
	第1演習室 (2階)＜56席＞	情報科学 (理学部) 大塚 寛	情報処理 (工・環境 3年) 井内 國光	野口 一人	夜 間 開 放 (17:00 ～ 21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞			
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞	情報科学 (理学部) 谷 弘幸	情報処理 (工・環境 3年) 伊福 誠	情報科学 (農学部) 堤 三佳				
火	第6演習室 (4階)＜56席＞	情報科学				工学実践英語 (工 2年) 有光 隆		
	第4演習室 (4階)＜56席＞	(工・機械、電気、環境)	情報通信システム特論 (理工学研究科 1年) 都築 伸二	情報科学 (医、看護、SSC)	情報科学 (教育)	工学実践英語 (工・機械 2年) 柴田 論	7/31	
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞	二宮 崇		平田 浩一	平田 浩一	ITパスポート試験対策講座		
	第1演習室 (2階)＜56席＞	情報科学 (工・機械、電気、環境) 八木 秀次		情報科学 (医、看護、SSC) 岡本 好弘	情報科学 (教育) 岡野 大	夜 間 開 放 (17:00 ～ 21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞	情報科学 (工・機械、電気、環境) 大賀 水田生		プロジェクト研究I (教育3年) 和田 武	情報科学 (教育) 阿萬 裕久			
水	第6演習室 (4階)＜56席＞		リーガルリサーチ (法・総政2年) 上山 友一		8/1			
	第4演習室 (4階)＜56席＞			Technical Writing in English (大学院前期課程1年) 田中 寿郎		ITパスポート試験対策講座		
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞	新入生セミナー (工・機械1年) 松下 正史	新入生適成度実入りガイダンス (工・機械 1年) 岡本 伸吾	情報科学 (法・人文) 中川 裕治	情報と現代社会 (教育、理、工1, 農2) 樋上 喜信			
	第1演習室 (2階)＜56席＞		8/1	情報科学 (法・人文) 木下 浩二		夜 間 開 放 (17:00 ～ 21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞		メディア基礎演習 (教育) 原本 博史		データベース論 (教育) 和田 武			
木	第6演習室 (4階)＜56席＞		リーガルリサーチ (法・総政2年) 上山 友一					
	第4演習室 (4階)＜56席＞			Technical Writing in English (大学院前期課程1年) 田中 寿郎		8/2		
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞			コンピュータ化学 (理工学研究科) 奥島 鉄雄		ITパスポート試験対策講座		
	第1演習室 (2階)＜56席＞					夜 間 開 放 (17:00 ～ 21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞							
金	第6演習室 (4階)＜56席＞	情報科学		情報科学	環境建設・特別演習I (工・環境建設 3年) 二神 透			
	第4演習室 (4階)＜56席＞	(法・総合政策)			環境建設・特別演習I (工・環境建設 3年) 畑田 佳男	8/3		
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞		コンピュータ化学 (理工学研究科) 奥島 鉄雄				情報科学 (法・夜間主) 佐々木 隆志	
	第1演習室 (2階)＜56席＞	情報科学 (法・総合政策) 和田 武	地理学演習B (法・人文 2～4年) 堤 純	黒田 久泰		夜 間 開 放 (17:00 ～ 21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞	情報科学 (法・総合政策) 伊福 誠		情報科学 (工・情報) 甲斐 博	データベース演習 (教育) 和田 武		情報科学 (法・夜間主) 二神 透	

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。

* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。

2013/6/18

5. 業務関連

(4) 利用状況

平成24年度後期演習室使用予定表

演習室使用予定表								
平成24年度・後期								
曜日	時限	8:30～10:00	10:30～12:00	12:50～14:20	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30	19:40～21:10
演習室	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	
月	第6演習室 (4階)＜56席＞			情報処理 (工・環境 2年) 井内 國光				
	第4演習室 (4階)＜56席＞	自然の法則 福山 隆雄	システムデザイン (工・3年) 甲斐 博	情報処理 (工・環境 2年) 伊福 誠				
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞	情報と現代社会 (法・教育・理・医・農・SSC) 森 儀之助		2/4				
	第1演習室 (2階)＜56席＞			2/4		夜間開放 (17:00～21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞							
火	第6演習室 (4階)＜56席＞							
	第4演習室 (4階)＜56席＞			環境建設工学実験II (工・環境 3年) 全 邦町				
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞			プログラミング言語 (工・電気電子 1年) 松永 真由美	プログラミング言語			
	第1演習室 (2階)＜56席＞					夜間開放 (17:00～21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞							
水	第6演習室 (4階)＜56席＞				1/30			
	第4演習室 (4階)＜56席＞		スポーツ情報処理 (教育 1年) 田中 雅人		2/30	教育情報メディア論 (教育 2年) 東 慶太郎		
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞			コンピュータ基礎(演習) (理・数学 2年) 中川 裕治				
	第1演習室 (2階)＜56席＞					夜間開放 (17:00～21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞				プログラミング演習 I (教育 1年) 和田 武			
木	第6演習室 (4階)＜56席＞			環境建設デザイン演習I (工・1年) 高山 雄貴			政策情報論 (法・総政 2年～) 中村 悦大	
	第4演習室 (4階)＜56席＞							総合政策特講 (法・文夜間 2年～) 藤川 健
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞			CAD実習 (工・機械工学科 2年) 八木 秀次				
	第1演習室 (2階)＜56席＞					夜間開放 (17:00～21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞			人文情報処理演習A (法文 2年) 和田 武				
金	第6演習室 (4階)＜56席＞		会計情報論 (法・総政 3～4年) 岡本 直之	情報活用技法 (法文 1年～) 折戸 洋子				
	第4演習室 (4階)＜56席＞			現代と科学技術 羽藤 賢治	環境建設・特別演習II (工・環境建設 3年) 畑田 佳男			
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞		技術英語 (工・3年) 野村 信福	環境建設・特別演習II (工・環境建設 3年) 二神 透	創造設計製作 (工・3年) 堀 三佳			
	第1演習室 (2階)＜56席＞			2/8		夜間開放 (17:00～21:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞		
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞			数理統計学 (法文 2～4年) 佐藤 晋秋	プログラミング言語 I (教育 1年) 和田 武			
* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。								
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。								

土	第6演習室 (4階)＜55席＞							
	第4演習室 (4階)＜56席＞							
	第2・3演習室 (3階)＜63・42席＞							
	第1演習室 (2階)＜56席＞		休日開放 (10:00～17:00) ＜夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬～4月上旬)は休止＞					
	メディア演習室 (2階北)＜56席＞							

2013/6/19

(5) センターイベント

● 動画教材作成ソフトデモ

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成24年 6 月13日(水)
 (1 回目) 10:30～12:00
 (2 回目) 13:00～14:30
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター 1F メディアホール
対 象：教職員

● キャンパスIT授業

主 催：愛媛大学
日 時：平成24年 9 月12日(水) 13:10～16:15
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター
対 象：高校生

● Moodle講習会

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成25年 3 月22日(金) 13:30～16:30
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター 2F メディア演習室
対 象：授業担当教職員

● 情報セキュリティポリシー関連説明会

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成25年 3 月27日(水) 15:00～16:40
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター 1F メディアホール
対 象：教職員

(6) 各種委員会

【センター会議】

平成24年度 第1回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成24年 6月20日 10:30～11:35
2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室
3. 出席者 大橋センター長、大塚委員、木村委員、薬師神委員、二宮委員、戎委員、中川委員、和田委員、川原委員、仲道委員、村上委員
- 欠席者 折戸委員（法文学部）、観音委員（教育学部）、野口委員（センター）、佐々木委員（センター）

会議を開始するにあたって、大橋センター長から総合情報メディアセンターの運営について、今後のこの会議の役割について、発言があり、1年間の各委員への協力を求めた。

続いて、本委員会名簿を配付し、各委員から自己紹介があった。

（審議事項）

- 1 平成23年度決算（案）及び平成24年度予算（案）について（村上委員、資料1）
村上委員から資料に基づき説明があり、種々審議の結果、平成23年度決算（案）及び平成24年度予算（案）について、原案どおり了承した。なお、予算の追加と流用について来年度は、区別して集計することとなった。
- 2 利用負担金について（村上委員、資料2）
村上委員から資料に基づき説明があり、種々審議の結果、平成24年度全学利用負担金については、原案どおり了承した。なお、負担金に当該部局の規模が適切に反映されていない点が指摘されたため、今後検討することとなった。
- 3 愛媛大学情報システム利用上のガイドラインの制定について（川原委員、資料3）
川原委員から資料（配布済）に基づき説明があった。種々審議の結果、本日原案了承は時間的にも困難であるため、1週間ほどの余裕を持ち、修正意見等をメディアセンター総務（村上）まで提出し、その結果を「持ち回り」会議で諮ることとした。
- 4 「愛媛大学総合情報メディアセンターに置く部会に関する内規」の一部改正について（村上委員、資料4）
村上委員から資料に基づき説明があり、種々審議の結果、原案どおり了承した。
- 5 総合情報メディアセンター教員人事について（中川委員、資料5）
中川委員から資料5に基づき仲道助教の任用及び坂本客員教授の任用についての説明があり、スケジュールの関係で事後になってしまったが、審議の結果、異議なく了承された。

（報告事項）

- 1 平成24年度年度計画及び取組内容について（村上委員、資料6）
村上委員から資料6に基づき、報告があり、特に、「年度計画に基づく取組内容」については、これについて了承を得た。
- 2 仮想化統合環境構築の現状について（川原委員、資料7）
川原委員から資料7に基づき、現在城北キャンパスでの仮想化サーバ環境の現状を報告した。併せて、今後の計画で、旧仮想化サーバを重信キャンパスへ移動し、冗長化を進める計画である旨説明した。
- 3 サーバゾーンのセグメント分割状況について（村上委員、資料8）
村上委員から資料8に基づき、報告があった。

平成24年度 第2回総合情報メディアセンター会議議事要旨

平成24年 7月11日

平成24年度 総合情報メディアセンター第2回センター会議（持回り）の結果について

このことについて、下記の議案が承認されましたので、「愛媛大学情報システム利用上のガイドライン」及び「愛媛大学情報システム利用上のガイドラインに基づく説明資料」が平成24年 7月 1日付けで制定されましたことをお知らせします。

記

議 題 愛媛大学情報システム利用上のガイドラインの制定について
添付資料 愛媛大学情報システム利用上のガイドライン
愛媛大学情報システム利用上のガイドラインに基づく説明資料

平成24年度 第3回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成24年 8 月 6 日 10:30～12:10
2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室
3. 出席者 大橋センター長、観音委員、大塚委員、木村委員、薬師神委員、二宮委員、戎委員、中川委員、和田委員、川原委員、佐々木委員、仲道委員、村上委員
欠席者 折戸委員（法文学部）、野口委員（センター）

（審議事項）

1 利用負担金について（村上委員、資料1）

大橋委員長から本議案は第1回会議で原案のまま了承されたが、その審議の中で、部局間の負担額に不公平感があるため、今後ルールを再検討すべきとの合意がなされたとの説明があった。その後、センター内で検討した結果、今年度においては是正できる旨の判断があり、本会議に上程、村上委員から資料に基づき説明があった。審議の結果、平成24年度全学利用負担金については改正案どおり承認されたが、来年度の積算に向け、部局負担ルールの見直しを図ることとなった。

2 キャンパス内無線LANの環境整備（川原委員、資料2）

川原委員から資料2に基づき説明があった。審議の結果、樽味を除くキャンパスについては、原案どおり、公衆無線LANの環境整備が承認された。なお、樽味キャンパスについては、戎委員から現有LANを据え置く中で、学生使用（e-Learning）のための増設については了承できる旨の発言があり、後日センターから樽味キャンパスへ説明に向うこととで了解を得た。

3 キャンパス間ネットワーク高度化のための環境整備（川原委員、資料3）

川原委員から資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（報告事項）

1 メディアホールプロジェクターの更新…資料4

村上委員から資料4に基づき報告があった。

2 eラーニングコンテンツ作成機材整備…資料5

村上委員から資料5に基づき報告があった。

3 その他

なし

平成24年度 第4回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成24年11月19日 10:30～11:40
2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室
3. 出席者 大橋センター長、観音委員、大塚委員、木村委員、薬師神委員、二宮委員、戎委員、中川委員、和田委員、川原委員、佐々木委員、村上委員
欠席者 折戸委員（法文学部）、観音委員（教育学部）、大塚委員（理学部）、仲道委員（センター）

（審議事項）

1 全学メールについて（資料1）

大橋センター長から、平成22年度から導入した全学メールについては、現在3500アカウントで対応しているが保守体制や今後のアカウント増加等問題点が多々あるため、クラウド化で対応することを検討していることの概略説明があった。

引き続き、川原准教授から資料1に基づき、現在のメールシステム及び問題点等の説明並びに検討中のクラウド型メールシステムの説明があり、種々検討の結果、学生については導入する方向で了承を得た。なお、教員・職員については、各学部持ち帰りで検討し、次回センター会議までに回答することとした。

2 目的積立金プロジェクト等の修正について（資料2）

村上事務課長から資料2に基づき、平成22年度のメディアセンター繰越金である目的積立金について、状況等の変化に伴い、プロジェクト等を修正したい旨の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

3 平成25年度年度計画（案）について（資料3）

村上事務課長から資料3に基づき、平成25年度の年度計画（案）について説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

4 無線ネットワークのエリア確認について（資料4）

大橋センター長から無線ネットワークAPの配置原案を作成した旨の報告があり、引き続き川原准教授から、説明があった。なお、今回の場所指定については、第2部会で決定した優先順位により機械的に場所を指定したので、使用方法の変更等で必要のない場所があれば、連絡してほしい旨の説明があり、変更等の連絡は平成24年12月3日(月)までに報告することとなった。なお、変更報告のない場合は、今回の指定場所で確定することとなる。

(報告事項)

1 第5演習室の利用方法について(資料5)

村上事務課長から、メディアセンター第5演習室をeラーニング用の部屋とすることとし、19台のパソコンは別置き、供用に資することとなる旨の報告があった。

平成24年度 第5回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成25年1月31日 10:35～11:55

2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室

3. 出席者 大橋センター長、折戸委員、観音委員、大塚委員、木村委員、薬師神委員、二宮委員、戎委員、中川委員、和田委員、川原委員、佐々木委員、仲道委員、村上委員

大橋センター長から議事に入る前に、「全学メールについて」を開催通知では報告事項としていたが、審議事項6と変更している旨報告し、了承を得た。

(審議事項)

1 愛媛大学総合情報メディアセンター規則の一部改正について(資料1)

2 愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室内規の制定について(資料2)

大橋センター長から、審議事項1、2については、前回会議で報告した教育デザイン室の設置に伴う改正等である旨発言があり、まず仲道委員から教育デザイン室の設置について概要説明を求めた。引き続き、村上事務課長から「愛媛大学総合情報メディアセンター規則の一部改正」及び「愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室内規の制定について」説明があり、種々検討の結果、教育デザイン室内規の第2条の条文から「情報教育に関する」という文言及び第3条第1号の条文から「情報教育における」という文言を削除することとし、了承された。

3 無線ネットワークの利用形態について(資料3)

大橋センター長から、審議事項3について発言があり、川原准教授から資料3に基づいて、無線ネットワークの利用形態についての説明があった。引き続き、種々審議の結果、了承を得た。なお、利用方法等についてはホームページ上で現在のネットワーク利用解説に追加される予定である旨報告がなされた。

4 情報基盤システムの更新について(資料4)

大橋センター長から、審議事項4について発言があり、村上事務課長から資料4に基づいて、情報基盤システムの更新についての説明があった。引き続き、審議の結果、異議なく了承された。

5 学習管理システムMoodleのバージョン移行について(資料5)

大橋センター長から、審議事項5について発言があり、川原准教授から資料5に基づいて、学習管理システムMoodleのバージョン移行についての説明があった。なお、第3部会長の仲道助教から補足説明があった。引き続き、種々審議の結果、異議なく了承された。

6 全学メールについて

大橋センター長から、教職員の全学メールのクラウド化については、前回会議の持帰りとなった旨の発言があり、このことについて、各学部からの意見を求めた。各学部から発言があり、学部内で個別にはある程度の教員から一定の要望や不安感についての発言があったが、学部としては農学部を除く各学部から教職員の全学メールのクラウド化について理解が示された。

なお、学生メールのクラウド化については全学部の手承を再確認できたので、推進することとし、教職員については全学部の手承を得ることが出来なかったため、保留とした。

(報告事項)

なし

【教員コア会議】

- ・平成24年4月26日(木) 平成24年度第1回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成24年5月31日(木) 平成24年度第2回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成24年6月28日(木) 平成24年度第3回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成24年7月26日(木) 平成24年度第4回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成24年8月30日(木) 平成24年度第5回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成24年9月27日(木) 平成24年度第6回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成24年11月5日(月) 平成24年度第7回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成25年1月17日(木) 平成24年度第8回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成25年2月27日(水) 平成24年度第9回総合情報メディアセンター教員コア会議

(7)センター規則

愛媛大学総合情報メディアセンター規則

〔平成23年4月1日〕
規則第 24 号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、愛媛大学（以下「本学」という。）の情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる教育研究部門を置く。

- (1) 情報基盤部門
- (2) 情報メディア教育部門
- (3) 学術情報システム部門

第2章 業務等

(業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 計算機システムに関すること。
- (2) ネットワークシステムに関すること。
- (3) 情報教育に関すること。
- (4) 学術研究支援に関すること。
- (5) キャンパス情報化に関すること。
- (6) eラーニングコンテンツの制作支援に関すること。
- (7) その他愛媛大学先端研究・学術推進機構長（以下「機構長」という。）の指示する業務

(組織)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター員
 - ア センターの専任教員
 - イ 本学の専任教員（アの者を除く。）若干人
 - ウ その他必要な職員

2 センター長候補者は、本学の専任の教授又は理事のうちから愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）が推薦し、学長が選考する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

4 センターの専任教員は、学術研究会議が推薦し、学長が選考する。

5 センター員のイの者は、センター長が推薦し、機構長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

6 センター員のイの者の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第6条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター員は、センターの業務を処理する。

(教育デザイン室)

第6条の2 センターに、eラーニングコンテンツの研究・開発及び制作支援等を行うため、愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室（以下「教育デザイン室」という。）を置く。

2 教育デザイン室に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第7条 センターに、第4条に規定する業務に関する企画立案等を行う部会を置く。

2 部会に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

第3章 センター会議

(センター会議)

第8条 センターに、第4条に掲げる業務の運営に関する重要事項を審議するため、総合情報メディアセンター会議(以

下「センター会議」という。)を置く。

(組織)

第9条 センター会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター員 若干人
- (3) 各学部専任教員 各1人
- (4) 総合情報メディアセンター事務課長
- (5) その他特に必要と認めた本学の職員

2 前項第2号の委員は、センター長が指名する。

3 第1項第3号の委員は、当該教員の所属する学部の長の推薦に基づき、機構長が委嘱する。

4 第1項第5号の委員は、センター長が推薦し、機構長が当該職員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

5 第1項第2号、第3号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第10条 センター会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

2 議長は、センター会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 センター会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第12条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

第4章 利用等

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(分室)

第14条 センターに、医学部分室及び農学部分室を置く。

2 分室に関する規程は、別に定める。

第5章 雑則

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部総合情報メディアセンター事務課で処理する。ただし、分室における事務は、当該分室が所在する学部の事務部で処理する。

(その他)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 愛媛大学総合情報メディアセンター規則（平成16年規則第191号）は、廃止する。

3 愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会規程（平成16年規則第24号）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

愛媛大学総合情報メディアセンター分室規程

〔平成16年4月1日〕
規則第 192 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター分室（以下「分室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(分室長)

第2条 分室に分室長を置く。

2 分室長は、当該分室が所在する学部为爱媛大学総合情報メディアセンター会議委員（以下「センター会議委員」という。）をもって充てる。

3 分室長の任期は、センター会議委員として任命された期間とし、再任を妨げない。

4 分室長は、愛媛大学総合情報メディアセンター長の指示に従い、当該分室の業務を処理する。

(委員会)

第3条 分室の円滑な運営を図るため、分室に分室の運営に関する委員会を置くことができる。

(雑則)

第4条 この規程に定めるもののほか、分室に関する必要な事項は、分室長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

愛媛大学総合情報メディアセンター利用規程

〔平成16年4月1日〕
規則第 193 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第13条の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）が管理する計算機システム（以下「システム」という。）及びキャンパス情報ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者の資格)

第2条 システム及びネットワークを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 愛媛大学の職員、学生及び附属学校生徒
- (2) その他センター長が適当と認めた者

(システム利用の手続)

第3条 システムを利用しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出するものとする。

2 前項の有効期限は、当該年度限りとする。

(ネットワーク利用の手続)

第4条 ネットワークを利用しようとする者は、所定の手続により、申請するものとする。

2 前項の有効期限は、ネットワーク利用が認められた者の資格が失われるまでとする。

(ポリシー等の遵守)

第5条 システム及びネットワークを利用する者は、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本方針、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本規則、国立大学法人愛媛大学情報システム運用・管理規程及び国立大学法人愛媛大学情報格付基準を遵守しなければならない。

(システム利用経費の負担)

第6条 利用に係る経費を負担する者（以下「支払責任者」という。）は、システム利用が認められた者の利用に係る経費を負担しなければならない。

2 前項の規定により支払責任者が負担すべき経費の額及び負担方法は、センター会議の議を経て、センター長が別に定める。

(ネットワーク利用経費の負担)

第7条 ネットワーク利用が認められた者の負担すべき経費の額及び負担方法は、センター会議の議を経て、センター長が別に定める。

(利用時間の制限等)

第8条 センター長は、システム及びネットワークの利用に関し、利用時間帯を制限し、又は指定することができる。

(機器の移動等の禁止)

第9条 センターの機器等に関し、次の各号に掲げる事項は禁止する。ただし、センター長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

- (1) 機器の移動又は変更
- (2) ソフトウェアの変更、追加

(利用承認の取消し等)

第10条 センター長は、センターに関する諸規則に違反する者があるとき、又はセンターの運営に重大な支障を生じさせるおそれのあるときは、その者の利用の承認を取消し又は利用を停止することができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター会議の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年9月12日から施行する。

案 内 図



〒790-8577 松山市文京町3
 3 Bunkyo-cho Matsuyama 790-8577, Japan
 TEL 089-927-8803,8804・FAX 089-927-8805
<http://www.cite.ehime-u.ac.jp/>
 2013.7発行